

令和5年度 小学校教科用図書調査研究報告書

国語	-----	1 頁
書写	-----	2 頁
社会	-----	3 頁
地図	-----	4 頁
算数	-----	5 頁～ 6 頁
理科	-----	7 頁～ 8 頁
生活	-----	9 頁～ 10 頁
音楽	-----	11 頁
図画工作	-----	12 頁
家庭	-----	13 頁
保健体育	-----	14 頁～ 17 頁
英語	-----	18 頁～ 19 頁
道徳	-----	20 頁～ 21 頁

丹後教科用図書採択地区協議会

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	国語	種類	3種
--------	----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	光村図書出版(38・光村)	発行者名(番号・略称)
		国語 109・110・209・210・309・310・409・410・509・609	国語 111・112・211・212・311・312・411・412・511・512・611・612	国語 113・114・213・214・313・314・413・414・513・613	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 各単元に学びの手順である「見通す」、学習過程の「取り組む」、自己の学習成果を自覚するための「ふり返る」の3ステップが明示されている。 年間1冊(高学年)となっており分厚く重い、一年間の見通しが持てている。 全体として「言葉の力」を付けることがどの単元でも終始一貫している。 読み取り方・書き方など学習の仕方と学習内容がセットで記載されている。 巻末には学習してきたことの総復習として、自分の書いてきたものをまとめ、文章の書き方を定着(認知)させる単元が配置されている。 QRコードが随所に配列され、教材の系統性や練習問題など見ることができる。教科書での情報を最小限にし、QRコードでたくさんの情報を補っている。 読書に親しむための本の紹介が網羅されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの学習ステップ「たしかめよう」「くわしく読もう」「まとめよう」「伝え合おう」を設定し、見通しをもって学習できる工夫がされている。 上下巻2冊の構成となっており、持ちやすく軽い配慮をしている。 「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の領域の系統性をはじめ、分かりやすく示している。領域ごとに色分けがされており、分かりやすい。 本編と付録で構成されており、付録の読み物が興味を引く内容であり、充実している。 物語文の掲載が多く、文章量も程よく、内容的にも工夫されている。 読書に親しむための本(伝統的な言語文化に関する読み物等)の紹介がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体のスタートには、学び方の見通しがシンプルに記載され配慮されている。 単元の初めには、学ぶ内容とねらいが明確に示されている。 年間1冊(高学年)となっており分厚く重い、一年間の見通しが持てている。 「読む」ことの単元で、資料を用いた文章の効果を読み取らせ、読む学習で付けた力を用いて、資料を基に「書く」単元が設定されている等、連動性がある。 ソフトな色合いで目に優しい配慮がされている。季節ごとのことばを大切に扱っている。 読書に親しむための本の紹介がある。 単元の導入に、既習事項を振り返る項目が明示されている。 	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの指導事項・学習のポイントについて「言葉の力」「ポイント」等にまとめて明示している。 物語の読み取りの方法の例が示されており、読み取りの視点がとてもシンプルで明確である。その視点に特化して物語や説明文を読む仕組みになっている。 新聞の取り扱いが10ページ(高学年)あり、情報活用を大切に取上げている。 「ノートのつくり方」「デジタルしりょうをつかおう」など、教科書に掲載してある。また、二次元コードから、様々なアプリを活用できるようになっている。 前学年で学習した漢字を復習する小単元がところどころに設定されており、読み書きだけでなく、同じ読み方の漢字、同じ漢字を使った言葉、同じ部首の漢字など、既習漢字の使い方を広げられるようにしている。 「季節の足音(春・夏・秋・冬)」で、伝統的な言語文化(文語調の短歌や俳句、詩など)が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの指導事項・学習のポイントについて「ここが大事」にまとめて明示している。学んだことを日常生活に生かせるように内容をまとめた「言葉の道具箱」が巻末に設けられている。 大きな読み物教材の前に、ショート読み物で解説し、読み方の手立てを示している。 読む単元の後に、読む教材に出てきた着目させたい言葉を学習の進め方のページとは別に列挙して示している。 「情報ノート」や「漢字学習ノート」を例示し、1年間のノートの書き方の一助としている。 新聞の取り扱い6ページ(高学年)掲載されている。 「言葉の文化」で、「月」や「雪」などのテーマにちなんで、詩や短歌・俳句・言葉などが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの指導事項・学習のポイントについて「たいせつ」にまとめて明示している。 語彙を豊かにするため、巻末に気持ちや考えを伝える言葉を「言葉の宝箱」にまとめられている。また、学習の伝え合うために使う言葉を「学習に用いる言葉」として取り上げている。 新聞の取り扱い4ページ(高学年) 前学年で学習した漢字を復習する小単元がところどころに設定されている。 「きせつの言葉(春・夏・秋・冬)」で、伝統的な言語文化(文語調の俳句や短歌、季語)が掲載されている。また、それらを生かした言語活動例が示されている。 情報の扱い方に関するページが独立して示され工夫している。 	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活で起こり得そうなことを題材として取り上げている。身に付けたい「ことばの力」と実生活とが結び付くことで必然性を生じるよう配慮している。 課題解決するための問いが設けられており、課題意識をもって主体的に考えることができるよう工夫されている。 キャラクターによるつまづきを想定した問いが各所に示されている。 「ディベート」の取り扱いについて、反対の意見を予想しながら説得力のある意見を出せるよう配慮されている。 二つの文章を比べる説明文は、書きぶりの違いを考えさせる教材としてよく考えられている。 話すこと聞くことの単元で、モデル動画とエラーモデル動画があり工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の題材を取り上げ表現する上で意欲につなげ、ポスターに表現させる展開を採用している。 課題解決を図るための問いが設けられており、課題意識をもって順序立てて考えることができるよう工夫されている。 「パネルディスカッション」で防災について考えさせた上で、「パンフレットを書く」活動につなげている。 「ディベート」の取り扱いについて、AIとの暮らし方に係り、議論を取り扱っている。視点が考えさせる内容で工夫されている。 「この間に何があった？」の教材は、非認知能力も問われる内容で、想像力と言葉で伝えたり書いたりする力を付ける教材として、よく工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの振り返り項目を具体的に示し、自己の考えを整理することができるように工夫されている。 「目的に応じて引用するとき」では、情報の整理にとって意図的な引用が大事であることを伝え、次の書く単元において、その学びを活用する構成となっている。 「ディベート」の取り扱いについて、「旅行の行き先は山か海か」のような身近で議論しやすい内容を取り扱っている。 話す聞く単元で、モデル動画がQRコードから見ることもできるよう配慮している。 	
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> 単元の初めのページに、単元ごとの学習の流れ(見通す⇒取り組む⇒振り返る)が示され、教材の終わりに、めあてと具体的な課題解決の方法が示されている。ノート例や話し合い活動の例も豊富で工夫がされている。 物語自体が、山場・心情の変化を捉えやすい教材になっている。 読む教材には、必ず関連した読書教材が紹介され学びを広げやすくなっている。 話し合いの動画などがQRコードで視聴でき、モデルを示している。 単元の終わりに学習をどんなことに生かすことができるか示されている。 言語教材に関連したQRコンテンツが、児童の主体的な学び・個別最適な学びを支えることに繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の初めに親しみやすい「話す・聞く」、「読む(詩)」の小単元が設定されている。 読む教材の後には、必ず関連した多くの読書教材が紹介され学びを広げやすくしてある。 思考ツールや図解などを掲載し、それらを活用し対話的に学習する仕掛けがある。 感想を伝え合う、発表練習をする、話し合いをする場面の例が、人物のイラストと吹き出しで示されている。 大切な言語事項や着目させたい言葉などを色分けして見やすく記載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年の初めに親しみやすい「話す・聞く」、「読む(詩)」、「書く」の小単元が設定されている。 学習の始めに自ら問いをもたせる場面を設定することで、学習を自分事として捉え、取り組めるように工夫されている。 教材の後に、問いや見通しをもつための学習の流れを示している。着目する言葉やノートの例、伝え合いの例なども下段に示されている。 書いた後に伝え合う、話し合いで発表するなどの場面の学習で、人物のイラストと吹き出しで例が示されている。 	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの本が紹介され、多読するきっかけづくりなど、配慮している。 読む・コラムを書くなど、部分的に情報社会の視点がちりばめられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「まなびリンク」によって、ウェブサイトと連動し、新しい情報を得られるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いかそう」の項目で、ほかの教科や生活に役立つ大切なこと・発展させることが記載されている。 	
(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や社会科で調べたことなどと関連付けて、タウン誌を書くなど、教材に配慮されている。 単元の終わりに学習をどんなことに生かすことができるか示されている。(学級会の話し合い・社会科の学習で見学のお礼の手紙・資料を読むときに段落のまとめを考えながら読もう。) プログラミングの視点を「ことばの力」と関連付けて取り扱っている。 ローマ字を言語事項として取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や社会科の学習と関連があり、町の案内文や紹介のポスターを書く活動が設定されている。 パネルディスカッションやパンフレットを書く活動は、社会・総合などの考えを深める際や表現する際に活用できる内容となっている。 ローマ字を言語事項として取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告文を取り扱う単元では、情報整理の仕方を学ばせ、社会科や総合的な学習の時間につながるような内容を取り扱っている。 単元の「ふり返り」のあとに「ことばの力」の活用ができるように「生かそう」で具体的な教科領域で広がりをみせる学習活動を示している。 ローマ字を言語事項として取り上げている。 		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 資料や図表や関連する本などを適宜配置し、文字数も控えめで、読んで見やすい割り付けになっている。 国語学習の進め方・国語ノートやデジタルノートの作り方が示されている。 様々な種類(練習問題・系統表・課題把握のための動画・解説など)のQRコードが記載されている。 写真や挿絵が大きく、興味関心を引き立てる工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書体やUDフォントを使い、特別支援教育への配慮がある。色調にも配慮されている。 目次とは別に、内容項目ごとに単元がまとめて提示されている。 大切な言語事項や着目させたい言葉などを色分けして見やすく記載されている。 図や表が大きく示され、学習活動の具体例が色分けされるなど、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書体を用いて、読みやすく、見出しにはUDフォントが使われ配慮がされている。 「問いをもとう」、「見通しをもつ」、「目標」、「ふりかえろう」など視点が大きく示されていて工夫している。 学習の大切なポイントを色分けして表記している。 	

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	書写	種類	3種
--------	----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	光村図書出版(38・光村)	発行者名(番号・略称)
		書写106・206・306・406・506・606	書写107・207・307・407・507・607	書写108・208・308・408・508・608	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆で課題を見つけ、毛筆で大きく書いて確かめ、硬筆に生かす形態をとり、普段使う手書きの文字に生かすことをねらいとしている単元構成になっている。 ・QRコンテンツが豊富で、アニメーションやシミュレーションが、課題を見つけたり解決したりするのに役立てるよう工夫している。 ・学習事項が「書写のかぎ」として、各単元に端的に表示されている。 ・対話的に学習が進められるよう、設問が設けられている。 ・左利きの児童や配慮を要する児童、多様に配慮したイラスト、色、教材づくりが工夫されている。 ・点画の書き方では、すべての点画に「とん・すう・びた」などの音の記述があり、筆圧の説明が丁寧にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構成として、①毛筆の大きな文字をじっくり見て②めあてを確認③学習課題④学習事項(書き方のこつ)⑤確かめて書く⑥振り返るという学習過程となっている。 ・書き方を動画やアニメーションで確認することができるようにすべての毛筆にQRコードが配置されている。 ・多様な文化や多様に係り、左利きの児童への配慮やUDフォントを使用するなど工夫がみられる。 ・点画の種類では、「とん・すう・びた」の記述が一部にあり、筆圧の強さを3段階で示している。 ・筆順、字形、運指等を動画(実物)で説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆によるクイズや課題発見のための比較などが初めに配置され、大きな毛筆の文字を書いたり観察したりすることで文字の原理を確かめ、硬筆で再度書いて確かめたり、生活に生かしたりする単元構成になっている。 ・最初の課題発見のための比較などがカラー色やイラストで見やすく、工夫し配慮されている。 ・6年生には、6年間の書写の学びを総括する「書写ブック」がついており、系統性を振り返るとともに、書写での学習を日常へ生かせる仕組みになっている。 ・QRコンテンツで参考資料やアニメーションが豊富である。 ・「点画の種類」では、筆圧を「1の力・2の力・3の力」と表して、書き方や力の入れ具合のポイントを示している。 	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富なQRコンテンツで、手順や動きがよく分かる。確かめながら書くことができる。 ・「しんにょう」や「右払い」はどのくらいの長さがよいのか、動画コンテンツで字形のシミュレーションを行いながら課題解決できる仕組みに工夫が見られる。 ・すべての毛筆において、穂先の通り道が朱墨で示されている。 ・点や画の名前を覚えやすい工夫をしている。 ・文字を整えて書くためのポイントが「書写のかぎ」として示されている。 ・大筆のおろし方は、「半分より多め」、説明動画は、おろし方から墨の付け方まで説明されている。 ・点画の種類をあらかじめまとめて表記している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のめあてが明確に提示され、注目するポイントが分かりやすく取り上げられている。 ・すべての毛筆において、穂先の通り道が朱墨で示され、基本の筆づかいが一貫している。 ・用具の扱い方や、後片付けの仕方が丁寧に記されている。 ・大筆のおろし方は「半分より多め」、説明動画は、おろし方のみ簡潔に説明されている。 ・点画を単元に分けて提示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年における毛筆指導でひらがなや漢字かな交じり文の取り扱いも重視されている。 ・硬筆→毛筆→硬筆の流れで、毛筆学習の後には必ず硬筆課題を設けている等工夫されている。また、学習のねらいをページ下段にまとめている。 ・すべての毛筆において、穂先の通り道が朱墨で示されている。 ・大筆のおろし方は、どこまでおろすかの表記はないが、動画で説明している。 ・点や画の名前を猫のキャラクターで覚えやすい工夫をしている。 ・水筆の指導ページが設けられている。 ・点画の種類をあらかじめまとめて表記している。 	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の文字について、クイズ形式になっていたり、違いを見つけさせたりするなど、学習事項を対話的に見つけさせ、「書写のかぎ」のポイントにたどり着けるような単元構成となっている。 ・どうやって直したらよいかと投げかけることで考えさせている。 ・「整っているものはどちら?比べてみて気が付いたことは?」など、児童が自分で見つけたり考えたりできるよう課題設定がされている。 ・巻末に漢字表を掲載し、学習の中で漢字を選んで書く活動ができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「手紙を書くこと」でありがとうの気持ちを書いて伝える活動を各学年の学習活動に合わせて系統的に取り扱っている。 ・暑中見舞いや俳句、手紙を書く学習活動の中で、文字の大きさや行の中心等について考えられるように工夫している。 ・何画目かが、「どこが」、「どうなった」の視点で考えさせる工夫がしてある。 ・学習の始めと終わりの文字を書くことで、学習の成果を捉えることができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューメモの書き方、ポスターや新聞の書き方、パンフレットの書き方などでは、文字の大きさや配列、筆記具の工夫を取り扱い、実際に書いて感想を伝え合う活動を仕組んでいる。 ・「なぞとき」スタイルで、考えさせる工夫が配慮されている。 ・「整っているのはどちら?バランスがよいのはどちら?」など、児童に理由も合わせて考えるよう課題提示がされている。 ・学年のまとめとして、書写の言葉を使って自分のめあてを設定できるようにしている。 	
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・対話的な学習を促す設問が各単元に配置され、「書写のかぎ」(学習事項)につながるようになっている。 ・主となる学習事項を毛筆学習で確かめた後は、硬筆で他の文字の適用問題が用意され、生かしたり確かめたりすることができる。また、そのあとに「ふり返ろう」で自分の学びを振り返ることができる。 ・二次元コードのアニメーションで興味を図り、理解しやすい工夫をしている。 ・「書写の学び方」(見つけよう⇒たしかめよう⇒生かそう⇒ふり返ろう⇒生活に広げよう)が、子どもたちにとって分かりやすい。 ・書き初め「希望(半紙)」、「夢を語ろう(画仙紙)」を取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭に「未来に向けて」「日本の書く・世界の書く」など書写が生活の中でどう働くのかを希望を持たせるような写真やイラスト、キャラクターなどで描かれている。 ・1時間の見通しを持つ学習の進め方について「はじめの学習」に掲載している。 ・学び方がわかり、見通しをもつことができる。 ・単元で学習することが明確で、振り返りの視点も工夫している。 ・単元ごとに振り返りながら学習を進められるように工夫されている。 ・書き初め「理想(半紙)」、「夢の現実(画仙紙)」を取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めにその単元に関するクイズや課題を発見させるための問題が配置され、対話的に学習課題を見つける仕掛けが工夫されている。 ・QRコードのアニメーションや動画で、学習のポイントなどを視覚的に捉えることで学習への意欲がわく仕掛けとなっている。 ・「学習の進め方」は、単純で簡単な記述になっており、児童にとってわかりやすく負担感はなく配慮されている。 ・筆順等の動画や写真を収録したQRコンテンツにより、個別に視聴できる。 ・単元ごとに振り返りながら学習を進められるように工夫されている。 ・書き初め「感謝(半紙)」、「将来の夢(画仙紙)」を取り上げている。 	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・「文字といっしょに」という単元で、コラムとして漢詩や漢文、古文などを、書いて味わう活動が掲載されている。 ・日本の文字のいろや世界の文字などについてコラムで取り扱っている。 ・文房四宝(筆・和紙・硯・墨)の作られ方を取り上げている。 ・漢字の話で象形文字の紹介をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知りたい 文字の世界」という単元・コラムで、「活字」「平仮名のもとになる漢字」、韓国語や朝鮮語などの日常に見つける世界の言語、漢字や片仮名、平仮名の歴史などを取り扱い、言語への興味関心を広げさせている。 ・メモの取り方では、「速く書く」ために行書体につながる点画の方向や筆順など書き方も紹介している。 ・象形文字の紹介をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと知りたい」という単元で、コラムとして「手書き文字と活字」「漢字の書き方」「筆記用具図鑑」「文字の歴史」などを取り扱っている。 ・「漢字の書き方」では、速く書くために、次の画に続くように終筆が変わる場合もあることを紹介している。(楷書と行書) ・巻末に用具の産地を紹介するとともに、文房四宝(筆・墨・硯・紙)ができるまでの動画に収録している。 	
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活に広げよう」において、インタビューメモの取り方やリーフレット、ポスターなどの書くための工夫などを取り扱っている。書く方向、文字数、割り付け、文字の大きさなど、総合的な学習の時間や社会科、特別活動などで活用できるよう工夫されている。 ・リンクマークをつけ、他教科との関連を示している。 ・連絡帳の書き方を掲載している。 ・生活科の絵日記につながる縦書きの書き方を扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「レットトライ」という単元で、書写で学習した内容を生活に生かすことをねらいとして教材化している。「レットトライ」では、メモ、ポスター、リーフレットなど、日常に使うことが多い「手書きで書く」活動を取り扱っている。筆記具の選択や配列の工夫などを学び、それをほかの教科で生かせるようになっている。 ・横書きや縦書きの書き方の学習が、生活科の観察カードや絵日記につながるように学習内容として扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書写を広げたい」において、インタビューメモの書き方、英語で書いてみる、ポスターや新聞の書き方、パンフレットの書き方などを取り扱っている。総合的な学習の時間や英語、社会科などで活用できるよう工夫されている。 ・連絡帳の書き方を掲載している。 ・横書きや縦書きの書き方の学習が、生活科の観察カードや絵日記につながるように学習内容として扱っている。 ・国語の手紙の書き方やローマ字、横書きの書き方を取り上げている。 	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙は、毛筆の水や墨汁などに耐える加工がされ、耐久性のある表紙となっている。 ・特別な支援を要する児童に配慮した、UDフォントやレイアウト、色覚に配慮した色使いで工夫されている。 ・文章は簡潔に文節で改行され、端的で分かりやすい説明がされている。 ・全体的に淡くシンプルな色づかいと見やすい文字の大きさを使用している。 ・文字の配色が寒色でまとめられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙は、毛筆の水や墨汁などに耐える加工がされ、耐久性・撥水性のある表紙となっている。 ・特別な支援を要する児童に配慮した、UDフォントやレイアウト、色覚に配慮した色づかいが工夫されている。 ・指導事項をまとめて1ページにまとめている。 ・文字の配色灰色を基本としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙は、毛筆の水や墨汁などに耐える加工がされ、耐久性・撥水性のある表紙となっている。 ・特別な支援を要する児童に配慮した、UDフォントやレイアウト、色覚に配慮した色使いで工夫されている。 ・シンプルで淡い色使いで、見やすく配慮されている。 ・一つ一つの指導内容を1ページずつに分けている。 ・文字が見やすく配列されている。文字がオレンジや青を基本としている。 	

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	社会	種類	3種
--------	----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	2 東書	17 教出	116 日文	発行者名(番号・略称)
		社会 305 405 505 506 605 606	社会 307 407 507 607	社会 308 408 508 608	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	写真を多く活用し、また、小単位ごとに「学習の進め方」という学習問題を設定し、課題の追求や予想、学習計画の立案等が明記されている。 「つかむ・調べる・まとめる・いかす」の4つの学習過程を設けており、学習者がどのような手順で学習を進めるのか分かりやすい。6年は歴史編と政治・国際編の2冊構成となっている。	写真や絵、図などが大きく示してあり、二次元コードでワークシートや動画、画像等が多様に活用されている。「つかむ・調べる・まとめる・つなげる」の4つの学習過程を設けており、「この時間の問い」を例示している。また、学習の計画立案段階のページが割かれている。単元によりまとめの有無がある。6年は1冊構成となっている。	写真や図、地図が大きく示してあり、小単位ごとに「学習のまど」を設けている。「つかむ・調べる・まとめる」の3つの学習過程を設け、4人の会話をもとにしながら、学習が進められるように工夫されている。また、SDGsを中心とした社会の諸課題に関する内容を適宜取り上げている。6年は1冊構成となっている。	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	「ことば」コーナーとして、重要語句を明記し丁寧に説明している。「まなび方コーナー」を設け、調べる観点・話し合いの視点・まとめ方等を細かく明記し、学習技能を習得しやすいようにしている。また、二次元コードを活用し、ワークシートや動画、偉人の功績等、学習内容が整理できたり、分かりやすくなっていたりする。	用語にふり仮名を付け、読解に負担がかからないようにしてあるが、重要語句の説明は記載されていない。巻末には「索引」を設けて、確認に用いることができる。「学びの手引き」を設け、1時間ごとの問いの解決に向けた調べ方・考え方・まとめ方を示し、学習を振り返りながら学びを整理しやすくなっている。	「キーワード」として重要語句を記載しているが、「学びのてびき」を学習の流れに沿って設け、必要な技能を系統的に習得できるようにしている。また、ノート例を記載し、学習のまとめ方について提示しているところが特徴的である。	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	様々なグラフや地図、写真を多用し、資料を児童が選択できる、また、複数の立場から社会的現象を多面的・多角的に学習できるような配慮をしている。多様なまとめ方を具体的に示しており、多様な方法で表現力の育成を目指している。「いかす」場面では、社会的な事柄に参画・提案する等、意思決定や判断力の育成も意識されている。	社会的現象の時期・場所・広がり・変化等について写真やグラフ等を多用し、社会的な見方・考え方を育てることにつながっている。また、「まとめる」場面では、文章にまとめる、発表する、話し合う等の多様な表現方法を紹介している。「つなげる」場面では、地域・社会のこれからについて判断・構想等の場面を充実させている。	「まとめる」ページにおいて、ノートでのまとめがベースとなっている。どの単元でも、社会情勢やこれからの社会を考える場面が設定され、今より望ましい社会について考えたり、判断したりできるよう工夫されている。	
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	「学びのポイント」として学習の仕方が分かりやすく、学習の進め方が見開き1ページとして提示している。また、学習内容を身近に感じられるよう、各単元初めに生活体験に即した題材を取り上げている。また、各単元終わりには学習内容に関連した他地域の様子を取り上げ、学びを広げたりできるよう配慮している。	毎時間の「問い」の提示、「学び方・調べ方コーナー」の設定、「学習計画を立てる」場面の重視等、見通しが持ちやすく工夫している。交流を通して気付きを書き加えるページが設定され、対話を通して学びが深まるよう配慮されている。また、二次元コードや「学びにリンク」を通して、解説動画やドリルなど、学びを広げる工夫もある。	「つなげる」ページを設けたり、他地域の様子や取組を取り上げたりして、よりよい社会生活になるよう考えたり生かそうする意識を持たせている。また、6次産業やAI、病原菌対策等、社会情勢や時事にかなった内容も取り上げている。二次元コードを通して、アプリや解説動画で学びを広げる工夫も見られる。	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	防災・安全教育、道徳教育、国旗、地域医療、電気・ガス、未来の産業等、「ひろげる」場面において、選択的に例示されている事例について、柔軟に扱えるページが設定してある。また、細かな情報として掲載されている。	SDGsや取り組んでいる地域について、コーナーを設け、二次元コードも活用して、しっかり明記され、詳しく説明されている。また、コーナーやコラムを設け、学習内容について、さらに詳しい情報が掲載されている。選択的に例示されている事例について、柔軟に扱えるページが設定してある。	「つなげる」場面で、学習内容をSDGsにつなげたり、詳しく説明したりしている。また、国際理解・グローバル教育についても触れられている。選択事例や学習事例を取り上げ、発展や比較、補充など柔軟に扱えるページを設定している。	
	(5) 他の教科等との関連	国語・算数・理科・外国語(国際理解)、SDGs等の他教科と関連する内容については、「教科関連マーク」を示し、分かりやすくしている。	教科書の最初に、「他の教科とのかかわり」という欄が設けてあり、他教科との関連の例や概要が示されている。	3学年では生活科との関連、SDGsの内容では理科的な視点からの関連、新聞づくりでは国語との関連等、学年や内容に応じた関連性が見られる。(17項目のシールが添付されている。)	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	カラーバリアフリーを採用し、見やすい彩色となり、図表やグラフの色調、模様、形、線種でも判別できる。UDフォントや教科書体の使い分け、特殊な読みなどへのルビもあり、読みやすい。二次元コード等を活用し、前回ページ数の5%減少させる。	カラーユニバーサルデザインにより見やすい配色で、全体的に落ち着いたデザインにしている。UDフォントで見やすく、当該学年以上の漢字やキーワードにはすべてルビが入っている。タブレットを活かした学習方法を取り上げたり、ページ下に各時間における付けたい力を明記したりしている。古い写真もカラーで再現され見やすくなっている。	UDフォントを採用し、読みやすくしている。カラーユニバーサルデザインにより、多くの人に見やすいよう配慮されている。二次元コードで、動画を見たりワークシートを得たりできる。	

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	地図帳	種類	2種
--------	-----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	2 東書	46 帝国	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		地図303	地図304	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	子どもが使いやすく、関心をもって、様々な場面で活用できるよう工夫されている。デジタルコンテンツで地図のPDF版もある。	分かりやすく正しく国土理解ができ、歴史学習やこれからの社会、他教科で活用できるように工夫されている。また、デジタルリンクの中に動画や詳しい情報が掲載されている。		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	地図記号、索引、地形表現等の基礎的な地図の読み方を丁寧に解説し、キーワードコーナーで重要語句も解説している。農作物や伝統品等をイラストとして明記したり、二次元コードでドローン映像やクイズ、土地利用、学習内容習得のためにコンテンツが格納したりされており、分かりやすくしている。	地図記号、索引、地形表現等の基礎的な地図の読み方を丁寧に解説されている。3年生の内容は30ページを使って分かりやすく、歴史や産業等各学年の学習内容との関連したページが設定されている。農作物や工芸品のイラストが明記され、二次元コードに動画やクイズ、都道府県名等に取り組めるコンテンツが格納されている。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	日本と世界とを統一した縮尺で配置し、比較したり結び付きを調べたりと、多面的な学習が展開できるように構成されている。また、「マップでジャンプ」コーナーでは、情報の読み取りから考えを深める問題も設定されている。	都市圏図や都市図を使い、修学旅行や校外学習へ活用できるようにしている。絵記号やイラスト、土地利用の色分け等を組み合わせることにより、地域の特徴を考えたり捉えたりしやすくしている。		
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	主体的な学びを促す「ホップステップジャンプ」を配置し、自主学習を進めることができる。索引にチェック欄があり、これまで調べたりした項目がよく分かるようにしている。学習が見える化するがんばりシートがある。	「トライ」「地図マスターへの道」では、地図に親しめる問いや関心・資料活用能力を高める問い、挑戦コーナーが設定されている。資料地図では、多様なテーマによる主題図が大きく表現されて理解しやすい。使用頻度の高い統計資料や索引が充実しており、索引にはチェック欄があり進んで活用できるようにしている。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	世界の料理、日本の郷土料理や伝統文化、祭り、オリンピックやワールドカップ等、他に活用できる資料が掲載されている。また、SDGsの特設ページや関連するページにはマークが記載されている。世界史的な視点から日本の歴史を学ぶことができる。	SDGsコーナーを設け、環境・貧困・食料問題等、持続可能な社会のあり方という視点で地図標記している。世界遺産、オリンピック、サッカーワールドカップ開催地、世界の料理等が掲載されている。		
	(5) 他の教科等との関連	理科、家庭科、外国語(世界の挨拶等)、算数、国語(物語の舞台等)、音楽(曲の舞台等)等との関連を丁寧に位置付けている。	国語、音楽、体育、家庭、理科、外国語(国名や州名の英語表記)と関連させ、上記の内容を含め、幅広く活用できるようになっている。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	UDフォントを使用し分かりやすい。地名等の文字の縁取りがなされ、他の情報との重なりがあっても読みやすい。	UDフォントを採用したり、文字が白く縁取りされたり、地名等にルビがあったりして読みやすくされている。ユニバーサルデザインで配色され、土地利用も黄緑系を加えた5色で表現され、分かりやすくなっている。		

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	算数	種類	6種
--------	----	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	2・東書	4・大日本	11・学図	17・教出
		算数 112・113・212・213・312・313・412・413・512・513・612	算数 114・115・214・314・414・514・614	算数 116・117・216・217・316・317416・417・516・517・616・617	算数 118・218・219・318・319・418・419・518・618
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	単元の前半は資質・能力を育み、中盤から後半は、児童自らがそれまで身に付けた資質・能力を活用できるよう吹き出しや補助発問を設定している。 導入や考え方の動画等、デジタルコンテンツが豊富である。 大谷翔平のインタビュー等、児童の興味関心を引くよう工夫している。 生活場面とつなぐため、具体物や図、式を繰り返し取り上げている。	既習内容を振り返りやすいように、学年1冊の合本としている。 算数科で示されている資質・能力の育成のために、豊富な練習問題や、算数に関連するおもしろい問題、話題等を掲載するよう工夫している。 デジタルコンテンツを5種類のマークで示している。 単元末に、生活やプログラミング学習と関連付けたコーナーを設定している。	学習材として教科書を位置付け、導入では答えの見えない構成にしている。 単元末に、見方・考え方の視点で内容をまとめ、振り返りができるようにしている。 見方・考え方をキャラクター化することで、学習の中で意識しやすいよう工夫している。 教科書のサイズが大きい。	算数的活動の過程を問いの連続で構成し、主体的・対話的で深い学びができるよう工夫している。 単元末に、生活場面等での活用につなげ、「できるようになったこと」を実感できるよう構成を工夫している。 導入の工夫や、絵・半具体物・式を示すことで、生活場面とつながるよう構成している。 作図等のデジタルコンテンツが掲載されている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	練習問題が二次元コード化されている。正誤判定やヒント、解説、正誤の履歴表示等の機能もあり、個に応じて繰り返し練習問題に取り組むことができるよう工夫している。 ヒントは、キャラクターの吹き出しの形で表示している。 つまずきの多い問題には、デジタルコンテンツによる理解支援がある。 復習問題が豊富に掲載されている。	前学年までの学習内容を参照できるデジタルコンテンツが用意され、知識・技能を繰り返し振り返ることができるよう工夫している。 たしかめ問題には、問題番号に印を付けている。 デジタルコンテンツが豊富に配置されている。 スモールステップで段階的に問題設定されている。	単元末に、二次元コードで利用できる練習問題を用意している。 児童のつまずきが多い「倍」の内容について、特設単元として、3年から6年までの「倍の計算」単元で学習することができるように構成している。 2年「時刻」の学習を早期にすることで、生活の中で定着を図るよう工夫している。	毎時の知識・技能をアニメーションでまとめ、視覚的にも理解が深められるよう工夫している。 巻末に既習内容の一覧を掲載し、関連単元からリンクし、児童が自ら振り返って確認できるよう工夫している。 単元のまとめを「4コマまんが(見方・考え方)」で示している。 1年「時計」の学習を早期にすることで、生活の中で定着を図るよう工夫している。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	考え方のヒントを吹き出しの形で掲載している。考える余地を残すように工夫している。 ノートのまとめ方の見本を載せている。 発表場面に考えを比較し、共通点や相違点を読み取って説明する活動を設定したり、話し合い場面に、複数の解決法・表現法を比べて考察する活動を設定したりしている。	問題と解法を別ページに配置する構成を取り入れ、自分で思考し表現する活動が行えるよう工夫している。 考え方毎にキャラクターを設定し、配置することでヒントとしている。また、「算数の大切な考え方コーナー」を最初に掲載している。 ひらめきアイテムや、吹き出し形式の考え方ヒントを掲載している。 ノートの書き方見本を掲載している。	既習内容を振り返る場面を設定することで、学習内容を系統的に考察できるよう工夫している。 本時の問題を既習の問題と対比して考える場面を積極的に設定している。 吹き出しの形で考え方のヒントを掲載している。 図やノートの書き方見本や、キャラクターによる考え方のヒントを掲載している。	図と式を行き来しながら説明する活動を設定し、言語活動を通して数学的に考えたり表現したりする力を育成できるよう工夫している。 吹き出しによる考え方のヒントを掲載している。 数学的な見方を、領域を越えてつなぐよう工夫している。 単元末の学習内容のまとめを、ノートのまとめ方見本の形で掲載している。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	単元導入では対話を通して単元全体の課題を見出し、単元末では学習内容を対話形式で総括する活動を示す等、対話を重視した構成をとっている。 「今日の深い学び」コーナーとして、説明する活動を中心に協働的な学びにつながる構成を工夫している。 導入場面に動画等を活用している。 スタートブックのイラストが立体的で、イメージしやすいよう具体物に近づける工夫をしている。	単元導入では、児童が課題や問題を見出し、主体的に学習に取り組めるよう題材を工夫している。 「じっくり深く学び合おう！」の時間では、多様な解決方法を比較して話し合う活動等を設定し、深い学びが実現するよう工夫している。 単元初めに興味関心を引き出す「アプローチページ」を用意している。 身の回りの算数を扱ったコーナーを掲載している。 スタートブックがある。	単元導入では、イラスト形式の読み物で身近な疑問から学習課題をつかめるよう工夫している。 筆算の繰り上がりの数等、多様な考え方やかき方、求め方を示し、他者の考え方を理解し、認めることができるよう工夫している。 単元末に、次の学習につなぐようキャラクターの吹き出しでまとめる工夫がある。 次につながる疑問に「？」を付けている。	単元導入では、身近な場面から算数的課題を見出したり、既習内容を発展させて新たな問題をつくったり、目的意識をもって算数的活動に取り組めるよう工夫している。 良さや本質に向かう「学びを深める問い?」を示し、話し合いを方向付け、焦点化できるよう工夫している。 問いをつなげるよう「?(はてな)、!(なるほど)、!?(だったら)」と、展開を工夫している。 見通しがもてるよう、学習予告ページを設定している。 学びのサイクル「問いの連続性」の解説や、学び方のモデルが掲載されている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	算数と中学校数学との結びつきがわかるよう、6年単元末に具体的な例示を掲載している。 「算数の学習をしあげよう」では、中学校で活用する思考方法や数学的表現について振り返ったり、「算数卒業旅行」の「中学校体験入学コース」で中学校数学の内容に触れたりすることを通して、関心や安心感がもてるよう工夫している。	5、6年では、中学校の学習との接続を意図した巻末特設ページを設置している。	中学校で広がる数の世界で戸惑わないように、6年別冊「中学校へのかけ橋」の中で、ガイダンス的に正負の数や文字式等を紹介している。	第6学年末には、中学数学につながる教材にも触れ、進学への期待感が高められるよう工夫している。 「算数ワールド」や「算数ひろば」として発展や活用的な内容を扱っている。
	(5) 他の教科等との関連	教科横断的な教材を取り上げ、算数の学習内容の価値を感じたり、意欲的に学習に取り組めたりするよう工夫している。 SDGsに関わるテーマを扱っている。 他教科と関連する内容に印を付けている。 プログラミングに関する問題を扱っている。	他教科に関連した活動・題材や統計資料を適宜扱い、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成が図られるよう工夫されている。 棒グラフ、折れ線グラフ等の指導を早めに設定し、理科や社会科等の学習で生かせるよう工夫している。 算数に関わるSDGsのコラムを掲載している。 他教科と関連する内容に印を付けている。 低学年からプログラミングに関する問題を取り上げている。	他教科で利用性の高いものの学習を、単元配列で早めに設定し、他の教科で算数の学習を生かせるよう工夫している。 SDGsに関わる内容を扱っている。 低学年では、生活科と関連のある単元導入を扱っている。 低学年からプログラミングに関する問題を取り上げている。	教科横断的に取り組める教材や、短時間学習としても扱えるページを設ける等、カリキュラム・マネジメントを意識した構成の工夫をしている。 SDGsに関わる内容を扱っている。 低学年では、生活科と関連のある内容や、国語の「図鑑づくり」とつながった内容を扱う等の工夫がある。 低学年からプログラミングに関する問題を取り上げている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	実物の写真を使用し、実生活との関連を意識しやすいよう工夫している。 教科書で使う各種マークの説明を記載している。 ユニバーサルデザインフォントを使用している。 カラーバリエーションを意識した構成になっている。 緑色の線を多用している。	教科書に書き込んだり、教科書上の図を測定したりするような箇所では、作業がしやすいよう、書き込みスペースや図をページの外側に配置する等工夫している。 小単元のまとめ等で、大切な言葉にはゴシック体を使い、文字サイズも大きくしている。 巻末まとめに、デジタルコンテンツを多く配置している。 ユニバーサルデザインフォントを使用している。	単元の導入では、児童の興味・関心を高めるよう、イメージしやすいイラストで表示している。 教科書のサイズがB5より一回り大きい。 ユニバーサルデザインフォントを使用している。 文節で改行している。 カラーバリエーションを意識した構成をしている。 単元名がページの端に記されている。	作業的・体験的な活動の場面では写真を用いて動機付けたり、作図の手順を連続写真で説明したりしている。 動画にリンクし、指導時期以外でも繰り返し参照できるようにしている。 ユニバーサルデザインフォントを使用している。 デジタルコンテンツの使用方法を載せている。 話し合いの流れを載せている。

採択基準	基本観点	61・啓林館	116・日文		
		算数 120・121・220・221・320・321・420・421・520・620	算数 122・123・222・223・322・323・422・423・522・622		
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	キャラクターの会話や補助問題を適宜設定し、児童の思考に沿ったスモールステップで構成されている。 生活場面や既習内容と関連付けた問題を設定し、算数的活動を通して数理的に処理する技能が身に付くよう構成している。 二次元コードによるデジタルコンテンツが豊富である。 分数を小数より先に学習する構成となっている。	数学的な見方・考え方を繰り返し配置し、意識させるよう工夫している。 算数的活動の楽しさや数理的な考察・処理の良さを感得できるように、展開を工夫している。 単元初めに、既習内容の振り返りを設定している。 絵による視覚支援や、赤囲みによるまとめの強調がされている。		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	各学期の中間・期末にあたる時期に「復習」を設定し、現学年だけでなく前学年の内容も取り上げている。また、計算問題等は前々学年にまで遡って取り上げている。 低学年での数の学習に、かぞえ棒を使った説明を掲載している。 よくあるまちがいを二次元コードで示している。	単元の学習前に既習内容を振り返ったり、単元末に確認の機会を設けたりして、学習内容の定着を図るよう工夫している。 単元末に、児童がつまづきやすい内容について再度確認できるよう構成を工夫している。 デジタルコンテンツでの追加練習問題がある。 筆算等のアニメーションが用意されている。 会話から問題設定できるよう導入が工夫されている。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	課題解決の過程で、図や表、式に表して考えたり、伝え合ったりする等、数学的な表現力が身に付くよう工夫している。 数学的な見方・考え方にマーカーを付けて強調している。 数図ブロックの操作手順の表記をシンプルに示している。 考え方の進め方や図の描き方手順が示されている。	4段階で問題解決的な学習過程と着眼点を示し、言語活動が充実するよう工夫している。 各単元の内容や、複数の単元・領域を結びつけた内容を用いて、理由や方法を説明させる記述式の問題を扱っている。 「学び方ガイド」「算数で使いたい見方・考え方」の一覧掲載がある。		
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	身近な生活場面から導入し、算数的活動を通して探究的に学ばせ、算数の有用性を実感できるよう工夫している。 登場人物の対話場面を例示することで、主体的・対話的に学習を進められるよう工夫している。 「算数の自由研究」で探究的な算数的活動の充実を図る工夫をしている。 スタートブックがある。	身近にある課題を捉えて問題解決的に学習する中で、主体的に取り組み、個別最適な学びを実現できる問題の設定と、考えを発表し合う協働的な学びの場を設定し、多様な学びの形に対応できるように工夫している。 スタートブックが絵本のような作りになっており、算数の学習への抵抗を下げるよう工夫されている。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	中学校へのギャップをなくすために、4年生以上に「数学へのとびら」を設定し、数学につながる内容に触れ、進学への期待感を高められるよう工夫している。 見方・考え方を深める活動として「算数の自由研究」を設定している。	6年に中学校で学習する内容を紹介し、数学への関心が高まるよう工夫している。 見方・考え方を広げ深める応用的な内容や、学習指導要領に示されていない発展的な内容は、課題解決の喜びが感じられるような活用や探究につながる内容で構成している。		
	(5) 他の教科等との関連	他教科との関連にも配慮して教材が選定されている。 様々な教材を取り上げ、今日的な社会課題に寄与する態度を養うよう工夫している。 3年生以上に「わくわく SDGs」のコーナーを設定する等、SDGs に関わるテーマを扱っている。 低学年からプログラミングに関する問題を取り扱っている。	他教科や総合的な学習の時間と関連の深い素材や場面を、教科横断的に取り上げ、合科的な指導に役立つように工夫している。 現代的な諸課題に関連した学習材も開発し、積極的に取り上げている。 SDGs に関わるテーマを扱っている。 全学年に「レッツプログラミング」のコーナーを設置している。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	実際の事象を提示したり、児童に活動を促したりする場面では写真や挿絵を掲載し、実感をもてるように工夫している。 教科書で使う各種マークの説明を記載している。 話し合い活動の流れを載せている。 デジタルコンテンツの使用方法を載せている。 ユニバーサルデザインフォントを使用している。 めあての提示がある。	算数用語や説明については、本文と書体を変えて表記し、理解が図れるように配慮している。 各単元を領域別に色分けし、学習の系統性を意識しやすくしている。 ユニバーサルデザインフォントを使用している。 デジタルコンテンツの使用方法を載せている。 5・6年の教科書にはしおり紐を付けている。 ポイントは、太字で記載している。		

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	理科	種類	6種
--------	----	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	発行者名(2・東書)	発行者名(4・大日本)	発行者名(11・学図)	発行者名(17・教出)
		教科書の記号・番号 理科307 407 507 607	教科書の記号・番号 理科308 408 508 608	教科書の記号・番号 理科309 409 509 609	教科書の記号・番号 理科310 410 510 610
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめに学習のつながりを示している。 一段組(見開きで「問題」と「実験」を掲載)を採用し、問題解決のステップをはっきりと示している。 実験の掲載箇所に二次元コードを表示し、実験仕方や様子を動画で見られるようになっている。 話し合いや意見交流を想定したデジタルコンテンツを二次元コードにより掲載している。 実験器具の使い方は巻末にまとめて掲載している。 学ぶ前と学んだ後に、同じ問いかけについて考える工夫がなされ、児童が自分の成長を実感できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のつながりを示すものは巻末にまとめて示している。 二次元コードが各ページの下にあり、どの二次元コードからも同じリンク先に移動し、そこから学習している単元に関連した資料を探すようになっている。 それぞれの実験のあとに、まとめを示し、次の実験へとつながる流れになっている。 応用的な実験が掲載されている。身近な教材を紹介している。 実験器具の使い方を、巻末にまとめて紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の最初に、二次元コードからのリンクで、それまでの学習のつながりを示している。 問題ごとに実験が示されている。 単元の最後に応用問題が示されている。 実験器具の使い方は、巻末にまとめて掲載している。 学びの観点を示したキャラクターを置き、問題解決を促す工夫を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめに学習のつながりを二次元コードのリンクで見られるようになっている。 問題ごとに応用問題を掲載している。 単元の終わりに、振り返り、練習問題を掲載している。 実験器具の使い方は巻末にまとめて掲載している。 単元の主人公が、学習前と学習後の見方・考え方に変化があったことを示している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめをノート形式で掲載している。 実験結果のデータの示し方に工夫がある。(例:3回の平均を6班分) 実験方法の詳細については、二次元コードで記載している(教科書の記載は簡素)。 実験の説明はわかりやすい。 動画をもとに学んだことを生かす練習問題、つなげて考えるための練習問題を掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果のデータの示し方に工夫がある。(例:3回の平均を6班分) 実験の説明はわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の方法と結果が同じページに掲載されているが、結果は別ページの方が効果的と考えられる。 実験データは比較的少ない。(例:5回の平均) 実験の説明はわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめをノート形式で掲載している。 実験データは比較的少ない。(例:5回の平均) 実験の説明はわかりやすい。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法を簡素の記載することで、詳しく調べたい児童が自ら二次元コードを使い、方法について確かめたり、考えたりできる工夫がある。 プログラミングによる実験を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> はじめに問いは掲載されていない。自ら問題を見つけて学習を進めるような工夫がある。 プログラミングによる実験を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう」のコーナーで、発展的な実験を掲載し、思考力をつなげて考えられるような工夫がある。 キャラクター「理科モンスター」により、学習の中でつく力を表示し、児童がつける力を意識しながら学習を進められる工夫がある。 プログラミングによる実験を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自ら問題をつくることのできるような構成がされている。 以前の学習の振り返りに、「問い」ではなく、「結論」が記載してある。 プログラミングによる実験を掲載。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの流れの説明を二次元コードでリンクしている。 問題をつかみ話し合う流れを掲載。 対話の場面をイラストで示し、考察し話し合う流れを促している。 写真を撮って記録を残すような働きかけを掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル生き物図鑑を掲載。 二次元コードが各ページにあり、同じ総合コンテンツにリンクしている。 「理科のたまてばこ」のコーナーに、発展学習を多く掲載している。6社の中では最も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル図鑑にリンクを掲載。 説明活動を随所に示し、より深い学びにつなげられるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の系統を意識した表記をしている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 6年生巻末に、系統的につながる中学校の内容項目を掲載している。 			
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの例示を記載している。 SDGsとの関連を示している。 防災・減災教育とのつながりを示している。 人権、福祉、国際理解、ジェンダー、LGBTQへの配慮がある。 理科とテクノロジーとのつながりを意識できるような、STEAM教育との関連を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科と関連するところにはマークを置き、巻末にまとめて内容を示している。 ものづくりの例示を記載している。 一部に外国語教育との関連を示している。 情報活用能力に関わる資料を示している。 SDGsとの関連を示している。 防災教育とのつながりを示している。 カラーユニバーサルデザイン、UDフォントを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの例示を記載している。 SDGsとの関連を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの例示を記載している。 防災・安全教育の視点を記載している。 SDGsにつなげる記載が比較的多い。 カラーユニバーサルデザイン、UDフォントを使用している。 国語や算数との関連を示している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> A4版 二次元コードでリンクしているコンテンツが豊富。 オンライン授業や授業支援システムで利用できるデジタル理科ノートが用意されている。 デジタルワークシート(ダウンロードして使用) 学習のまとめを、大きく掲載。 パラリンピックの紹介等、福祉・多様性を意識した記載がある。 読みに困難さのある児童のために、「まとめ」には全ての漢字にふりがなを付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 従来よりも大型化しA4版となった。 結論を大きく掲載。 二次元コードでリンクしているコンテンツが豊富。 福祉・多様性を意識した写真・イラストを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかったこと」を大きく掲載。 二次元コードでリンクしているコンテンツを掲載。 マス目ノートの書き方を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> AB版より少し大きな判型を採用している。 結論を大きく掲載。 二次元コードでリンクしているコンテンツは単元ごとに数カ所 マス目ノートの書き方を掲載。 福祉・多様性を意識した写真・イラストを使用している。 資料写真などは北海道から沖縄まで様々な地域を取り上げている。 表紙は防水・抗菌加工がしてある。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	理科	種類	6種
--------	----	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	発行者名(26・信教)	発行者名(61・啓林館)		
		教科書の記号・番号 理科 311 411 511 611	教科書の記号・番号 理科 312 412 512 612		
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめにこれまでの関連した学習をの振り返りが掲載されている。 写真は、長野県のものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめに問題形式の振り返りを掲載している。 実験ごとに器具の使い方等の説明を掲載している。 問題解決の力を高めるための「学びのサイクル」「学びのライン」を示している。 		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 単元の終わりに、二次元コードにより練習問題にリンクしている。 実験の説明はわかりやすい。 実験のポイントの中に、危険を回避するための注意喚起の説明がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ワクビット」というCBTを活用し、読解力や情報活用能力を育む工夫がされている。 実験結果等、より数値が見やすい工夫がされている。 学習のまとめがノート形式で掲載されている。 実験結果のデータの示し方に工夫がある。(例:3回の平均を6半分、基礎的な知識という意味でばらつきの少ない例示) 実験のポイントの中に、危険を回避するための注意喚起の説明がある。 実験の説明はわかりやすい。 		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 以前の学習の振り返りは結論を掲載している。 学習の歩みが見える「観察カード」を掲載している。 身近なもので実験ができる工夫を示している。 プログラミングによる実験を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科の見方・考え方のポイントにマーカーを示している。 複数多面的に実験の例示があり、比較ができる工夫がある。 プログラミングによる実験を掲載。 		
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> 二次元コードにより、詳しく学ぶことができるコンテンツにリンクしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察場面での対話イメージを掲載。 防災につながる場面のイメージを掲載。 暮らしとリンクする場面を掲載。 「ワクビット」:オンラインの練習問題にリンクしている。 写真を撮って記録を残すような働きかけを掲載している。 3・4年では、素朴概念・問題発見を大切にした標記となっている。 		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の学習とのつながりなど、一部に発展的な内容を掲載している。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsとのつながりを意識した発展学習を積極的に掲載している。 		
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの例示を記載している。 防災・安全教育の視点を記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの例示が多く掲載されている。 防災・安全教育の視点を記載している。 学んだことを暮らしとつなぎ、理科を学ぶ意義や有用性を示している。 STEAM教育との関連等、教科横断的な視点で課題を捉えられる工夫がある。 防災・減災の資料を示している。 		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> A4 長辺 4cm短く、サイズに配慮している。 障害者や様々な人種のイラストやキャラクターを登場させている。 色覚特性に配慮したユニバーサルデザインを用いている。 	<ul style="list-style-type: none"> A4 長辺 4cm短く、サイズに配慮している。 情報量が多い。 二次元コードでリンクしているコンテンツは単元ごとに数カ所。 スマート解説がわかりやすい。 パラリンピックの写真、外国人、性別によらない子どもの写真・イラストがある。 インクルーシブ教育の視点から、特別支援教育(意味改行)、人権・ジェンダー・福祉、ユニバーサルデザインの視点が盛り込まれている。 5・6年は集中力が持続しやすいよう落ち着いた配色となっている。 		

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	生活科	種類	7種
--------	-----	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出
		生活 117・118	生活 119・120	生活 121・122	生活 123・124
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領で目指す資質・能力の3つの柱を写真、挿絵、吹き出し等で分かりやすく例示している。 (「本文」と「マーク」は、見開きの学習で主に育成を目指す資質・能力が明示し、囲みとマーク) ・スタートカリキュラムで行う内容を生活科として具体的に示してあり、どの学校でも適切に実施することができるようになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様で具体的な活動・体験について、児童の興味・関心や発達段階に応じて円滑に対応できるよう配慮されている。 ・各単元のページに示された課題文は、端的で分かりやすい。 ・QRコードが多く記載され、実際の映像を動画で視聴できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手に入れやすい身近な素材や教具が取り上げられているので、子どもの興味を引き出しやすい。 ・単元ごとに主となるキャラクターを設定しストーリー性をもたせることで、友達や周りに関わり合いながら変容し、成長していく様子を分かりやすく示している。 ・文字の情報が少なめで、大切なポイントが最低限の量で書かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付きをつぶやくキャラクターが子どもたちの意欲を喚起させる。 ・各小単元で最も育てたい資質・能力が「サイコロ」で示され、学習のめあてやその時間に子ども達から引き出した内容が把握できるよう工夫されている。 ・スタートカリキュラムも動画解説で、スムーズな小学校生活への移行を目指す工夫がされている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・「野さいずかん」では、土づくりや、いろいろな野菜の育て方などを順序立てて分かりやすく示している。 ・個別の気付きが相互に関連付く児童の姿が、写真や挿絵、吹き出し、表現作品などで具体的に示されている。 ・「やくそく」「かつどうべんりてちよう」など学習活動に即した習慣や技能を身に付けられる資料が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「がくしゅうどうぐぼこ」に豊富な資料を掲載し、児童が活動に即して基本的な知識や技能の習得が図れるようになっている。 ・「せいかつことば」「きらきらことば」を設け、児童の語彙力向上とともに、豊かな表現力の育成、表現活動の充実が図れるように構成が工夫されている。指導者も大切な言葉を意識しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やくそく」「ものしりシート」などのコーナーとして示すことで、それらを学習するという形ではなく、活動や体験の中で、子どもの思いや願いを実現する過程において身に付けられるよう工夫されている。 ・カードの書き方や観察のしかたを分かりやすい言葉で例示し、表現力の基礎や科学的な見方・考え方の基礎を育めるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な道具を使って遊ぶ、ものを作る、手や体、道具を使って掃除ができる、動物や植物の世話が出来る、電話や手紙、ICT 機器を使って連絡するなど、生活上必要な技能が適切に位置付けられている。 ・実感を伴った語彙力を育むことができるように多様な言葉を掲載している。 ・「はっけんロード」や「はてな」では、児童の気付きを促し、気付きの質を高めることができるよう工夫されている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の後半の発信する学習において、新聞、デジタル図鑑、巻き物など様々な方法が具体的に示されている。 ・「見つける」「比べる」「例える」など、気付いたことをもとに分析的に考えるための多様な学習活動例が、写真や挿絵、吹き出し、表現作品などで示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「せいかつことば」を設け、児童の語彙力向上とともに、豊かな表現力の育成、表現活動の充実が図れるようになっている。 ・教科書に書き込む部分が多く、1年を通した学びの足跡が残るよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学びを豊かにするために、「見つける」「比べる」「例える」「試す」「見通す」「工夫する」といった多様な学習活動が掲載されている。 ・キャラクターが具体的な言葉を発することで、子どもの思考を促すように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化、ICT 機器の活用などの多様な方法により、他者と伝え合ったり、振り返ったりする活動が繰り返し例示されている。 ・付箋を使い整理する活動や思考ツールを使ってまとめる活動などが例示され、自分の考えを表現したり、整理したりする力を育てる工夫がされている。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びを深める」というコーナーなどで、「主体的・対話的で深い学び」が実現されている児童の姿が、具体化されている。 ・教師の言葉かけや、環境構成、板書などの例が示されており、授業改善を図ることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入は、見開きのダイナミックな写真や絵で構成されており、児童の興味・関心を引き出し、児童の思いや願いをもとに主体的な活動が始まるように工夫されている。 ・写真が鮮明である(雨の傘など)。 ・交流する場面が設けられており、気付きを共有化し、気付きの質を高め、次の活動の意欲へと繋がるような流れが工夫されている。 ・気持ちマークの設定 自己の感情を直接的に表現することで、言葉以外の方法でも自己評価ができるように配慮している。最初お選択制、その後は自分で描くようになっており、文章表現に支援が必要な児童に配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自発的な言葉をもとにしたリード文や、活動の楽しさと熱気を伝える写真やイラスト、親しみやすい4人のキャラクターと適切な吹き出しなど、子どもの「自分でもやってみよう」という主体的な活動意欲が引き出されるよう工夫されている。 ・「学びずかん」を巻末につけることで、子どもが常に参考にし、自ら活動を広げていけるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして、自信の学びや変容を自覚できる学習活動が繰り返し設けられている。「ぐんぐんはしご」で、メタ認知ができる。 ・友達との対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学習活動が繰り返し設けられている。 ・「わくわくスイッチ」で動機付け、「はっけんロード」と「はてな」で自ら活動を組み立て、「ぐんぐんはしご」で振り返って自分の成長を自覚するメタ認知を育む構成となっている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面、衛生面での配慮が必要な活動や対象には、「てあらいマーク」「ちゅういマーク」が付されるとともに安全で学習活動が行えるように「やくそく」を掲載している。身近な幼児や高齢者、障害のある児童、外国の人などとの関わりを写真や挿絵で随所に示すなど、インクルーシブ教育に配慮している。 ・児童がSDGsについて、具体的な活動や体験を通して考えられるように様々な活動例が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イラストや写真の中に、外国にルーツをもつ児童を取り上げ、人種・国籍の区別なく学習に取り組む場면을例示している。キャラクターは多様性を意識して設定することで配慮している。 ・SDGsなど現代的な課題も取り上げられ、関連する部分にはマークが示されている。児童が身近な問題としてとらえることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、障害のある人、高齢者、身近な幼児など、多様な人々との関わりを大切に扱っている。 ・バリアフリーの視点から、身近な福祉関係の設備やそこで働く人々の存在に気付くよう配慮されている。 ・SDGS や安全・健康などの今日的な課題も随所に取り上げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の新しい生活様式が取り入れられ、手洗いや喚起、咳やくしゃみなどのエチケット、早寝、早起き、朝ご飯とともに、毎日の検温などを記載している。 ・インクルーシブ教育に配慮している。 ・写真やイラストで子どもたちの服装や髪形、持ち物などに配慮している。 ・SDGs について明記し、随所にSDGs マークを付け、意識付けを図っている。
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、道徳科、特別活動との関連的な指導のヒントや、関連を図った学習活動例や表現活動例が豊富に掲載されている。 ・生活科で育成された資質・能力が、中学年以降の学びの基礎なることがイメージできるように「つながりひろがる」が設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との関連が深いところには、関連がわかるマークが付けられ、工夫されている。 ・巻頭の「きらきらことば」は道徳にも関連している。 ・国語科との連携が随所にみられる。 ・3年生での理科・社会・総合的な学習の時間へのスムーズな移行を配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す」「聞く」「書く」といった国語的要素を重視した活動になっている。また、他者や自然を愛し、対話などを通じて他者を思いやる心を育むとともに問題解決を通じて自立私生活を豊かにできるような構成になっていて、道徳科との関連が感じられる。 ・原稿用紙を使った単元のまとめの文章や「はじめ・中・おわり」を使った手紙とその書き方などが示されていて、国語科との関連を配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はってん」コラムを設け、中学年以降へ学びを繋げられるように工夫している。 ・巻末の「まなびのポケット」では、生活科と各教科を結び付け、カリキュラム・マネジメントがよく見える構成になっており、児童にも指導者にも分かりやすい工夫がされている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサデザインフォントが使用されている。 ・文節で改行されていたり、分かち書きされていたりしており、低学年児童の読みやすさに配慮されている。 ・QRコンテンツが多数用意しており、ICT機器を活用した個別最適な学び・協同的な学びに対応できるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元名や本文は、児童の思いや願い、つぶやきを生かした親しみのある表現となっていて、活動を見通すキーワードになるよう配慮されている。 ・タブレットの活用場면을多数示し、ウェブコンテンツも豊富についている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字にはすべて振り仮名が付けられている。 ・タブレットを身近な道具として効果的に活用できるようにカメラやビデオ機能を中心に扱い、写真をもとに記録用紙に書いたり、話し合いに使ったりと身近な道具としての活用を示している。 QRコードによる多くの充実した資料、動画 ・臨場感あふれる写真で、児童の活動意欲が引き出されるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色覚などの特性をふまえ、判読しやすい配色やレイアウト(UD)がなされており、検証が厳しく取得が難しい CUD マークを取得している。 ・一人一台端末の効果的な活用例を豊富に記載している。必要な場面に必要なコンテンツを取り上げ、二次元コードで安心・安全な自社サイトにリンクできるようにしている。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	生活科	種類	7種
--------	-----	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	26 信教	38 光村	61 啓林館	発行者名(番号・略称)
		生活 125・126	生活 127・128	生活 129・130	
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・地域の豊かな自然環境や日常的な事象を取り上げ、具体的な活動を通して培われる感動体験を大切に構成になっている。	・資料編「ひろがるせいかつじてん」、QRコード資料等、豊富な資料で主体的な学びを生み出している。 ・「意欲と見通しをもつ」「学びを深める」「振り返る・つなげる」という3つのステップで、学習展開がひと目でわかる構成になっている。 ・ヨシタケシンスケさんの漫画が、児童の興味を引くように工夫され、親しみももちやすい。	・子どもの意欲・関心が生まれやすい挿絵、QRコード、コンテンツが充実している。どの単元も「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成され活動が発展しやすい。 ・単元導入で QR コード「学びウェブ」があり、単元の流れを見通すことができる。ICT とアナログのバランスが絶妙。 ・スタートカリキュラムが大切にされ、保育園・幼稚園からのスムーズな移行につながるよう配慮されている。また、QRコードでは保護者・教員向けに、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の力が分かりやすく示されている。	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・四季を通して繰り返し「いつものぼしよ」へ足を運ぶことで、自然の変化や地域の暮らし、人々の様子などに多様な気づきや発見の喜びを感じられるように工夫されている。 ・収穫の学習では、ダイズに注目し、3年生で学ぶ「すがたをかえるダイズ」の学習に繋がりやすく作られている。 ・活動を大切に単元構成になっており、児童が体験から多くの気づきが得られるよう工夫されている。	・児童が身近な対象について自分との関わりで興味・関心を高められるよう、これまでの経験を想起し、活動の見通しをもてる問いかけが位置付けられていたり、身近な学習材の写真がダイナミックに配置されていたりするなどして、配慮している。 ・別冊資料「ひろがるせいかつじてん」に、教科書と情報が分けられたことで、子どもたち一人一人が知りたい内容に応じて資料を活用しやすいう工夫されている。 ・成果物の例が多く示され、気付かせたいポイントが明確。	・学習図鑑や学びのヒントは、子どもの知的好奇心や探究心をくすぐる豊富な資料が掲載されている。 ・「こんなとき どうしよう」では、基本的な生活習慣や知識・技能、健康や安全に関する知識が身に付くよう工夫されている。 ・「がくしゅうずかん」という生活科の学習が楽しくなるヒントとなるページが多く記載されている。・学習活動が多様であり、気づきの質が高められる。	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・吹き出しなどの言葉の内容が、抽象的なことばであり、その言葉から児童がいろいろと考えを出しやすくしている。 ・観察カードに書いて表現したり、体を使って表現したり、話しことばで表現したり、いろいろな表現方法を提示し、児童の多様な表現に繋げる工夫がされている。 ・活動の例や具体的な方法などが少ない分、どうすればよいかを自分で考えられるよう配慮されている。	・ICT 機器を効果的に活用することで対話的な学びが活性化されるといふ観点から、ICT 機器が意図的、計画的に位置付けられている。 ・付箋を使った情報整理の仕方など、低学年でも無理なく活用できる思考ツールの活用例が提示されている。 ・生活科で求められる資質・能力を14の観点で整理し、重点をそれぞれの単元で示し、児童が活動経験を振り返る手掛かりとしている。 ・単元末の振り返りでは、対話を通して活動を振り返り、表現することで学びが深められるよう配慮されている。	・言葉、絵、動作、劇化などの表現を楽しむ多様な表現方法の例示がされている。 ・「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」「やってみよう」のステップで、児童が主体的に考え、探求して創り出す学習ができるよう工夫されている。 ・「学びのキーワード」(「見付ける」「比べる」「例える」「試す」「見通す」「工夫する」)などの気付いたことをもとに考えるための多様な学習活動を例示し、気づきの質が高まるように配慮されている。 ・ICT の活用について、場面に適した紙のカードやタブレットを使い分けるなど、学習に適した方法が示されている。	
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・ふるさとへの愛着が深められるよう「いつものぼしよ」や「さんぼみち」などの単元を設けることで、子ども達の興味・関心を引き出している。 ・子どもが思いをこめてひたすら活動に打ち込む姿、自他との関わりについて思考したり追及したりする挿絵や写真で表し、活動への触発となるように配慮している。	・つまずいたときや思考錯誤するときに大切な考え方が活動・表現のバリエーションのヒントとして取り上げられており、深い学びにつながる手がかりになっている。 ・気づきのヒント、問いかけの場がパターン化されている。 ・単元は「思いや願いをもつ」「活動や体験をする」「表現する・行為する」の構成になっており、導入では児童の思いを大切に、スムーズに体験活動に入りやすい配慮がされている。	・びっくり図鑑 LIVE では、教科書が図鑑となり、「もっと知りたい」「これはなんだろう」と児童の知的好奇心をくすぐる工夫がされている。 ・「ひろがるきもち」では、単元終了後も続けたいことや、学びを生かした願いが取り上げられ、単元での学びを生かした取り組みの継続の仕方が分かりやすく示されている。	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・端午の節句、七夕飾りなどが取り上げられており、昔から大切にされてきた節句や季節の変わり目に注目し、気づきを深めることができる。	・外国にルーツのある子どもたちが同じ空間で活動する ・SDGsや現代的な課題について、外来生物との関わり方や3R、資源を大切にすることなど、低学年にも取り組みやすい内容が取り上げられている。	・SDGsや環境教育の内容が充実している。 ・幼児や高齢者、外国の人、障害のある方など多様な人々と分け隔てなく関わる様子が写真やイラストで示されており、共生社会を目指そうとする意識が自然に芽生えるよう工夫されている。 ・びっくり図鑑 LIVE では、教科書が図鑑となり、児童の知的好奇心をくすぐる工夫がされている。 ・ひろがるきもちでは、単元終了後も続けたいことや、学びを生かした願いが取り上げられ、単元での学びを生かした取り組みの継続の仕方が分かりやすく示されている。	
(5) 他の教科等との関連	・文字が縦書きで、言葉が詩の形で表記されていることから、国語や道徳の要素を多く取り入れているように感じる。 ・それぞれの季節に合わせた歌が紹介されている。(音楽科)	・「ひろがるせいかつじてん」は、様々な教科とのカリキュラム・マネジメントにも対応している。 ・聞き方名人、話し方名人は国語の学習とつながっている。	・他教科との関連がある活動に、合科的・関連的な学習活動を示すマークが付けられており、カリキュラムを編成する際に参考にできるように配慮されている。 ・他教科などでの学習活動の例が豊富に掲載されている。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・「家庭に始まり家庭に帰る」ことを大切な学びのコンセプトとして位置付け、家庭・地域と共に育てる生活科の実践を目指した内容構成に配慮している。 ・デジタル教科書対応としてURL・二次元コードを目次に示し、図鑑的要素を多数盛り込んでいる。	・カラーユニバーサルデザインの観点から、色覚の多様性に配慮し、明確に識別できる配色が採用されている。 ・文字が半閉じやすいUD 書体が使用されている。 ・保護者も教科書を開くきっかけとなる工夫がされており、家庭での声掛けのヒントなどが提示されている。 ・有名な絵本作家の絵が全体に使われ、所々にユーモアのある4コマ漫画のようなストーリーが入っている。	・インクルーシブ教育が成されるために文字やデザインに配慮されている。 ・学研の図鑑LIVEとのコラボレーションで、鮮やかな写真が掲載されており、児童の興味を引く工夫が際立つ。 ・ICT の活用方法が分かりやすく示されており、ICT を活用した授業や活動イメージが持ちやすい工夫がされている。	

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	音楽	種類	2種
--------	----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	17 教育出版	27 教育芸術社	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		音楽103・203・303・403・503・603	音楽104・204・304・404・504・604	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・学習指導要領の目標に沿った系統的な題材構成となっている。また、教材ごとに学習のめあてを提示している。 ・各題材での学習内容を示した「学習マップ」を全学年の目次に次ぐ巻頭に掲載し、一年間の学習の見通しを示している。	・学習指導要領の目標に沿った系統的な題材構成となっている。また、題材のねらいと学習の目標とともに題材のまとめの問いかけを題材の最後に提示している。 ・各題材での学習内容を示した「学びマップ」を全学年の巻頭に掲載し、一年間の学習の見通しを示している。		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・共通事項を「音楽のもと」として教材ごとに見開き右ページ上部に示し、巻末に『音楽のもと』まとめとして示すことで学びを振り返り確認しやすいよう工夫している。 ・楽器の奏法を写真やイラストで掲載し、理解しやすいよう工夫をしている。 ・リコーダーの運指を巻末折込みで掲載することにより、ページを開き運指を確認しながら演奏できるよう工夫している。	・共通事項を教材ごとに見開き右ページ横に示し、巻末の「ふり返りのページ」でまとめることで学びを振り返り確認しやすいよう工夫している。 ・楽器の奏法を写真やイラストで掲載し、理解しやすいよう工夫をしている。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・「学びナビ」に思考させたい内容を示し、児童の気づきや思いを引き出す発問例を掲載している。 ・歌唱教材と音楽づくりや歌唱教材と鑑賞教材を組み合わせて配置することで、教材を関連付けながら学習できるよう工夫している。	・「考える」アイコンで、自分なりの思いや考えをもつための学習活動を記載している。 ・ワークシート例や児童のグループ活動時の言語活動を想定した吹き出しで示している。 ・題材のねらいに沿って、表現と鑑賞教材が配置されていることで、教材を関連付けながら学習できるよう工夫している。		
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・二次元コードが付してあり、更に詳細に調べたり、活動の手がかりをつかんだりできるよう工夫している。 ・「学びナビ」や「学び合う音楽(中高学年)」で、学び方を例示している。 ・写真や図・イラストを多く掲載し、学習内容を視覚的に理解しやすいよう工夫をしている。	・多くの教材に二次元コードが付してあり、更に詳細に調べたり、活動の手がかりをつかんだりできるよう工夫している。 ・「見つける」「考える」「歌う」「演奏する」などのアイコンで「どのように学ぶのか」を示している。 ・写真や図・イラストを多く掲載し、学習内容を視覚的に理解しやすいよう工夫をしている。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・「はってんマーク」で示している。 ・SDGsに関連した教材には、17のゴールのアイコンを付している。 ・「心と心をつなぐ音楽(6年)」で、著作権等について取り扱っている。	・「ステップアップのマーク」で示している。 ・SDGsに関連した教材に、SDGsにつながる視点を示している。 ・「音楽のもっている力や役割」の「著作権について知ろう」のコーナーで著作権について取り扱っている		
	(5) 他の教科等との関連	・国語の教材(1年)や算数や理科に関連した歌(2年・3年)、英語の歌(全学年)を取り上げている。 ・日本の伝統芸能やお祭り、季節ごとの行事に関連した歌やわらべ歌等を掲載している。 ・学校行事等で活用できるよう全学年に発達段階に応じた編成の同一曲を掲載している。	・国語の教材(4年)や英語の歌(3～6年)を取り上げている。 ・日本の伝統芸能やお祭り、季節ごとの行事に関連した歌やわらべ歌等を掲載している。 ・道徳教育や人権教育に関連した歌詞の教材が採用されている。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・ユニバーサルデザイン(配色・フォント)に配慮している。 ・題材名が、教材の見開き右ページの頭にそろえて提示している。 ・鑑賞教材では、楽器や演奏している写真やイラストを掲載している。 ・歌唱共通教材では、折込のページがあり日本の自然やその曲をイメージできるイラストや写真を掲載している。	・ユニバーサルデザイン(配色・フォント)に配慮している。 ・題材名が、教材の見開き右ページに番号ごとにずらして提示している。 ・鑑賞教材では、楽器や演奏している写真やイラストを掲載している。 ・歌唱共通教材では、日本の自然やその曲をイメージできるイラストや写真を掲載している。		

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	図画工作科	種類	2種
--------	-------	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称) 9 開隆堂	発行者名(番号・略称) 116 日本文	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		教科書の記号・番号 図工 105・106・305・306・505・506	教科書の記号・番号 図工 107・108・307・308・507・508	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	授業方法や指導方法が指導者や児童にとって視覚的に見通しが持ちやすい紙面構成や表示になっている。育成したい3つの資質能力に沿った学習のめあてを題材ごとに表示するとともに、当該題材で重点的に育成したい資質能力は強調して示している。 図工で学んだことを実生活に活かしていくことを大事に、作りたいという目的意識をもたせている。	学習のめあてを3観点5項目に細分化し、育てたい力を明確に示すことで、評価基準の観点到繋げることができ、指導と評価の一体化が図りやすい。 表現と鑑賞が一体的に学習できるように構成されている。お互いの作品を見合うなど、鑑賞している情景写真が掲載されている。 情報量が多く、自分で読み進め制作することができる。		
	(2) 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	作り方を写真やイラストで、安全面での指導も見開きの中で分かりやすく明示している。また、端末でも確認ができる。安全な用具の使い方や振り返りなどの知識や技能にかかわる情報を巻末の資料に整理して表示してある。 学んだことをすぐ生かす題材を設定する等、スモールステップで知識や技能が確実に身に付くよう配列を工夫している。	低・中・高学年と経験を重ねていけるよう題材を配列している。同じ用具を繰り返し使うことで、用具の取り扱いに慣れるとともに、技能を積み上げていけるよう工夫している。 巻末資料で材料や用具の取り扱いがイラストや写真で丁寧に説明されている。また端末を活用し動画で確認しながら自分で学習が進められるよう工夫されている。		
	(3) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	完成作品だけでなく発想や構想が働いている場面を掲載し、試行錯誤しながら発想・構想の力が付くような投げかけがされている。系統的に題材配列も工夫されている。 端末でアイデアシートが利用でき、短時間で発想の方法を知り、気軽に楽しみながらかくことで造形的な発想の方法を学ぶことができる。 めあてと振り返りが一致している。	特に大切なヒントや鑑賞のヒントを示すことで児童の発想や活動への広がりや促している。ワークシートやアイデアスケッチを掲載することで発想や構想を広げる際のヒントとなるよう工夫されている。 図工ノートを活用し、今までの作品をポートフォリオ化することで、構想に繋げている。 学びに向かう人間性についての振り返りを大事にしている。		
	(4) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	作品や児童の活動場面を大きく掲載することでメリハリのある楽しい紙面となっている。動画視聴で児童が興味をもって取り組めるようにしている。 共同で行うことを意図した題材や言語活動を重視した題材を設定され、コミュニケーション能力を高めていけるよう配慮されている。 効果的に表現する方法を端末での情報の中から児童自身が選択しやすい。	実際の授業を撮影した写真を用い、児童の発言やコメントを掲載することで、意欲が喚起される。 振り返りを促す問いかけがあり、身に付いた力を児童が自覚し、次に繋げていける工夫がある。 対話をしながら活動を行う様子が掲載されており、QRコンテンツを利用し、アプリを使って対話的な鑑賞に取り組める。		
	(5) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	全ての単元でSDGsの視点を取り入れている。 図工の学びと地域や社会をつなぐ活動や取組として「つながる造形」を設定している。地域の良さを生かした造形活動から郷土理解を図る活動を取り入れ、地域に密着した行事や伝統工芸など郷土の造形を意識している。 造形的な力を生かし活躍している人から仕事の紹介やメッセージをキャリア教育として活用できる。	現代的な課題について考えられるよう、環境・地域文化・伝統文化・多文化共生・国際理解・平和・人権・防災・安全に関わる題材や事例を取り上げ、中でも、伝統文化を大切に扱っている。 プログラミングツールを使った作品を紹介し、プログラミングの思考を育むことができる題材がある。活躍している作家をキャリア教育として活用できる。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	必要な情報は上下に、中央に作品や活動、導入から振り返りと目標や流れ、手順が分かりやすく配列されている。 題材ごとにQRコードが提示され、豊富な画像や動画を利用しやすい。 UDフォントや当該学年配当漢字にふりがなを付けた図版に図版番号を付けた図版で全ての児童が分かるような配慮がある。 丸みのあるゴシックを使っている。	児童の実際の言葉で表記してあるため、児童にとって分かりやすい表現になっている。 コントラストや文字の背景色などカラーユニバーサルデザインに配慮している。また、UDフォントを採用されており、学年に合わせて文字の大きさが調整されている。 学年で習う漢字はひらがなで表記されている。 角ゴシックを使っている。		

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	家庭科	種類	2種
--------	-----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍株式会社(2・東書)	開隆堂出版株式会社(9・開隆堂)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		2 東書 家庭503	9 開隆堂 家庭504	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツを充実させることで、基礎的な技能の充実、思考力・判断力などの育成を図っている。 問題解決的な学習が繰り返し行える構成(ステップ1:見つけよう ステップ2:計画実践しよう ステップ3:生活に生かそう・新しい課題を見つけよう)にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「伝統」を取り上げた特設ページが設定されており、深く学んだり視野を広げたりできる。 題材が3ステップで構成されており、各題材の初めに写真があり、学習への気付きや課題を見つけて取り組めるようにしている。 		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 実習の手順を示した面積が広く、説明が細かく、丁寧にされている。 実習に関する資料が充実している。 「できたかな?」の欄で技能の抜け落ちがないよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材で身に付ける技能に関する手順が、目立つようにはっきりと色分けされており、何を学ぶのかが分かりやすい工夫がされている。また、手順が左から右に示してあるため、視線を移動させやすい。 チェック欄で基礎基本の技能がぬけおちないようにされている。 		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 「話し合おう」「考えよう」「調べよう」の活動を設定し、活動を通して思考・判断・表現力が育成されるようにしている。 生活の課題と実践を結びつけられるように「生活を変えるチャンス!」が設定され、学んだ知識技能を生かして思考・判断・表現力が育成されるように工夫している。 トライシートをつかって意見を可視化できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の初めのページで、「学習のめあて」として、気づく・見つける・分かる・できる・生かす・深めるなど、課題解決能力を育成しやすい流れを明記している。 「はらわたをとるのはなぜか?」と問いかけがあり、技能に留まらない思考に訴える工夫がある。P52みそ汁 		
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー動画があり、教師の読み上げではなく、生の声を聴き学習に取り組める。 「話し合おう」「深めよう」の欄では意図的に自分たちで対話する機会が設けられている。 学年最後のページにまとめ欄があり、自分のこれからを考える 	<ul style="list-style-type: none"> QR コードの動画で家庭に持ち帰っても自分で同じように実践できるようになっている。 豆知識の欄で学習プラスアルファの知識を付けることができ、知るのが楽しい工夫になっている。 「話し合おう」の欄では意図的に自分調べたことを友達と対話する機会が設けられている。 		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> P39 資料4 いろいろな買い物 P39 インターネットでの買い物に注意しよう P98 洗剤の種類に発展的な内容を記述している。 「プロに聞く」では、仕事で気を付けていることや生活に生かすことができることなどを取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発展的に学習する内容の工夫として「発展マーク」を付して明確にしている P65 「エシカル(倫理的な)消費」って何だろう P77 日本や世界のほっとタイム P109 未来に伝えたい日本の伝統建築 P123 目玉焼き 「キャリアインタビュー」では、生活に生かすことができる参考意見を取り上げている。 		
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇の重ね合わせのマークで、他教科との関連を示している。 小学校英語と関連し、家庭科に關係のある英単語をページ右下に載せ、次ページに日本語を示している。(イラストつき) SDGsの視点の環境教育の内容を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsと関連させた環境学習の充実を図っている。 他教科で学習と関連する内容に【関連リンク】を設けている。 		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 実習例におさえるべきポイントを児童に投げかける吹き出しがあり、分かりやすく工夫している。 実習に使う道具の名前に丁寧に説明書きがある等、文字の量が多い。 説明が細かく情報量が多い。 教科書の手触りが心地よい。太字心地よい。 「資料」や「学習」などの項目にナンバリングがされており、教師が指示を出す際に児童がどこをみてよいか分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> カラーユニバーサルデザインが施されており、手順が見開きで左から右への流れで一方向に視線を移すことができ、配色がはっきりしていて見やすい。 児童が読みやすいよう、説明などを精選し、紙面に空間を作ることで、見やすくしている。 大事な用語は太字(ゴシック体)にして目立つように工夫している。 		

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	保健体育	種類	6種
--------	------	----	----

(4)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	大日本図書(4・大日本)	大修館書店(50・大修館)
		教科書の記号・番号306・506	教科書の記号・番号307・507	教科書の記号・番号308・508
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中で3観点が適切に学べるようになっており、<u>授業と生活(実際場面)</u>とを往還しながら、主体的に学ぶことができるようになっており、 心と体を一体としてとらえる心身一元論をより意識した構成になっているとともに、<u>子どもを取り巻く情勢を踏まえて心の健康の在り方について、「実習」という内容でより具体的に向き合い、対応していく</u>ようになっており、 学習課題が一番上にわかりやすく明記され、写真やイラストが豊富で考えやすい。教科書とワークが一体型になっている。ICT 活用ができる。カラーユニバーサルデザインが採用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中で3観点が適切に学べるようになっており、 監修者からも分かるように保健体育分野の方だけでなく、特別支援の分野、他様々な視点から内容が構成されている。 心と体を一体としてとらえる心身一元論を意識した構成となっている。 学習課題が明記されている。写真よりもイラストが多い。教科書とワークが一体型になっている。ICT が活用できる。きりのいいところで文章改行されている。カラーユニバーサルデザインが採用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中で3観点が適切に学べるようになっており、 監修者からも分かるように保健体育分野の方だけでなく、感染症の分野、他様々な視点から内容が構成されている。 心と体を一体としてとらえる心身一元論をより意識した構成となっており、<u>とりわけ体育「体まぐしの運動」との関連が一層意識された構成となっている</u>。それらを踏まえた、実践が「心の健康」の単元に配置されている。 学習課題が明記されている。写真やイラストが豊富で考えやすい。教科書とワークが一体型になっている。ICT 活用ができる。 きりのいいところで文章改行されカラーユニバーサルデザインを採用
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 大事な(おさえたい)言葉や文について、<u>太文字</u>にしている。 おさえたい知識・技能については、<u>絵ではなく写真</u>を用いている。特に技能については、<u>写真と共にQRコードによる動画</u>がある。たとえば、3・4年 p20「手のあらい方」など 本文が簡潔でわかりやすい。大切な部分はゴシック体で示されている。QRコードから理解度チェックができる。実習が必要なものは、写真やイラストだけでなく、QRコードを読み込んで動画で確認することができる。学習をふりかえるページで、知識の定着を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各ページ下部に「ワード」「ミニちしき」を用いて、言葉の意味をおさえようとしている。 1 時間の終末に「まとめる」で大事な(おさえたい)言葉や文について、短い文(文章)でまとめている。 単元の最終ページにまとめるのページが配置されている。 本文は簡潔でわかりやすい。学習をふりかえるページで、知識の定着を図っている。単元名の横にあるQRコードで、その単元に関連する大修館のウェブサイトを見ることができる。見たい内容は自分で選ばなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 大事な(おさえたい)言葉や文について、<u>太文字</u>にしている。 おさえたい知識・技能については、<u>QRコードを用いて「ほけんクイズにトライ！」</u>で示され、タブレット等を用いて、復習できるようになっている。 本文は簡潔でわかりやすい。大切な部分は太字で示されている。 QRコードから「ほけんクイズ」ができる。 実習が必要なものは、写真やイラストだけでなく、QRコードを読み込んで動画で確認することができる。 学習をふりかえるページで、知識の定着を図っている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで思考し、判断させたいところについては、<u>写真ではなく、絵</u>を用いてやや曖昧さを示し、そこから主体的に具体化するようになっておりと感ずる。 <u>学校危機管理</u>の分野を教員だけでなく、<u>児童生徒共に考え取り組めるよう</u>になっている。たとえば、5・6年 p.43「ASKAモデル」など 学習の進め方の中で、自分で考えたり、調べたりするステップがある。 記述箇所が豊富。QRコードを読み込むことで動画資料も見ることができ、考えを深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで思考し、判断できるように、「考える やってみる」で場の設定をしている。 自分たちで思考し、判断させたいところについては、<u>絵</u>を用いて、やや曖昧さを示し、そこから主体的に具体化するようになっておりと感ずる。 学習の進め方の中で、自分で考えたり、話し合ったりするステップが用意されている。記述箇所が比較的少ない。 単元名の横にあるQRコードで、その単元に関連する大修館のウェブサイトを見ることができる。見たい内容は自分で選ばなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで思考し、判断させたいところについては、<u>写真ではなく、絵</u>を用いて、やや曖昧さを示し、そこから主体的に具体化するようになっており。 学習の進め方の中で、自分で考えたり、調べたりするステップがある。記述箇所が豊富。QRコードを読み込むことで動画資料も見ることができ、考えを深めることができる。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけで考えるのではなく、<u>地域や人とつながりながら主体的・対話的に取り組むこと、生活をしていく視点が示されている</u>。たとえば、6 年生最終単元と共に3・4年生 p.25 や5・6年 p.18 などが1 ページを使って標記されている 学習過程が決まっており、<u>授業の流れがわかりやすい</u>ので、主体的に学習が進めやすい。自分の考えだけでなく、<u>ほかの人の意見を聞いてわかったことを記述する</u>ところがある。 自分の生活を見直す場面が何度かあり、自分事として考えやすい。友だちと話し合う場面が多く設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分だけで考えるのではなく、<u>地域や人とつながりながら主体的・対話的に取り組むこと、生活をしていく視点が示されている</u>。たとえば、6 年生最終単元と共に3・4年生 p.22 や5・6年 p.17 などが「もっと知りたい！」のページに示されている。 学習過程が決まっており、<u>授業の流れがわかりやすい</u>ので、主体的に学習が進めやすい。 自分の生活を見直す場面が何度かあり、自分事として考えやすい。友だちと話し合う場面が多く設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学びを深めるために「資料 もっと学びを広げよう！深めよう！」のページが示されている。 自分だけで考えるのではなく、<u>地域や人とつながりながら主体的・対話的に取り組むこと、生活をしていく視点が示されている</u>。たとえば、6 年生最終単元と共に3・4年生 p.23 や5・6年 p.19 などが内容のすぐ下や横に標記されていたり、資料ページに示されたりしている。 学習過程が決まっており、<u>授業の流れがわかりやすい</u>ので、主体的に学習が進めやすい。 自分の考えだけでなく、<u>ほかの人の意見を聞いてわかったことを記述する</u>ところがある。自分の生活を見直す場面が何度かあり、自分事として考えやすい。 友だちと話し合う場面が多く設定されている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの視点が示されている。 表紙から「みんなで」「未来へ希望をもって」というテーマを感じる。 写真や絵について、<u>人種、性別、特別支援など共生社会を意識したもの</u>になっている。 QRコードから、動画や写真、図だけでなく、ワークシートも自分で読み込み、書くようになっており。現在の学習指導要領達成のための後半は、よりタブレットなどを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>パソコンやスマートフォンとの付き合い方</u>について、発展として示されている。 SDGsが内容の中に入っている。 他教科や他学年の保健と関連しているところはマークで示されている。「教科・学年・単元」 	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの視点が示されている。 例えば<u>新型コロナウイルス感染症によってあった風評被害など、情報の扱い</u>についても触れられている。「もっと学びを深めよう・広げよう」として掲載されている。
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 他教科との関連について、<u>内容の横に関連する教科名・学年・単元名の表記</u>がされている。 他教科や他学年の保健と関連しているところはマークで示されている。「教科・学年・単元」 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科との関連について、<u>内容ページの上か下に教科名・学年・単元名の表記</u>がされている。イラストが多い。説明文も簡潔で読みやすい。きりのいいところで文章改行されている。カラーユニバーサルデザインが採用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科との関連について、<u>内容の横に関連する教科名・学年・単元名の表記</u>がされている。イラストや写真が多い。説明文も簡潔で読みやすい。 きりのいいところで文章改行されている。カラーユニバーサルデザインが採用されている。他教科や他学年の保健と関連しているところはマークで示されている。「教科・単元・学年」

3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 表紙から「みんなで」「未来へ希望をもって」というテーマを感じる。 写真や絵について、人種、性別、特別支援など共生社会を意識したものになっている。 QRコードから、動画や写真、図だけでなく、ワークシートも自分で読み込み、書くようになっている。現在の学習指導要領達成のための後半は、よりタブレットなどの機器を用いた学習を意識している。 QRコードの位置について、内容のすぐ横に配置されている。 どのように学ぶのか、「ステップ」という標記で見通しを持って取り組めるようになっている。UDフォントが使用されている。イラストや写真が多い。 説明文も簡潔で読みやすい。きりのいいところで文章改行されている。 カラーユニバーサルデザインが採用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 表紙から「自分たちで」「希望ある未来に向かって」というテーマを感じる。 写真や絵について、われわれが主体となって考えていくことを意識したものになっている。 1 時間の内容を見開きにまとめ、QRコード「たのしい保健ウェブ」により、学びを広げ、深める工夫がされている。 QRコードの位置について、見開き左ページ上部に主に「たのしい保健ウェブ」が示され、内容はそのページで学ぶ、資料が提示されている。 折込カードがあり、持ち歩けるようになっている。 UDフォントが使用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 表紙から「自分たちで」「未来を切り拓いて」というテーマを感じる。 写真や絵について、われわれが主体となってつくり上げることを意識したものになっている。 1 時間の内容を見開きにまとめ、「課題をつかもう」→「今日の課題」→「調べよう」→「やってみよう」→「まとめ、生かそう、伝えよう」の構成となっている。 QRコードの配置について、内容ページの上か下にある。 UDフォントが使用されている。
---------------------	--------------	--	--	--

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	保健体育	種類	6種
--------	------	----	----

(4)枚中(3)枚

採択基準	基本観点	文教社(207 文教)	光文書院(208 光文)	株式会社 GAKKEN(224・学研)
		教科書の記号・番号 保健309・509	教科書の記号・番号 保健310・510	教科書の記号・番号 保健311・511
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	1時間ごとの流れが記載されている。 毎時間のふり返りがかけるよう工夫されている。 ・真の生きる力を養っていくことを目標に設定し、「健康とは何か」「健康になるためにはどうしたらよいか」「目標達成のために、自分にとって、これから何がひとつよくなるのか」の3つを学習の中で思考できるように構成されている。	・自分をふり返り、課題を設定、様々な学習活動を通して、自分の生活に生かすという流れがはっきりしている。 ・教科書の構成を見つける(健康の大切さに気づき、自ら主体的に学習にはついていける)、知る(身近な生活における今必要な健康・安全に関する情報が身につく)、生かす(自分の生活に結び付けて学習を活用し、課題解決の楽しさを味わう)の3要素で構成してある。	予想や今までのふり返り、学習したこと等を記述させるところを多く設けている。イラストが大きく表示してある。その分ページ数も多い。 単元の最後にふり返ってまとめるページを設定している。 ・「進んで健康になろうとする力」、「実践に生かすことができるようになる」、「学びを自らすすめていくことができるようになる」の3つの力が身に付くように3つのピース①自分で考える(ふりかえる)②友達やみんなと考える(けいけんをもとに話し合う)③身に付けたことを生かす(学びを生かす)を1時間の基本とし、これを繰り返すことで着実に力にしている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・3, 4年(体の発育・発達)年齢を重ねるごとの体重の変化も記載している。思春期に起こる体の変化の図では男女に共通してみられる変化の項目がある。 ・5・6年(病気の予防)イラスト重視で病気の起こり方を表している。病原体の実際の拡大された写真が多く、種類も多く掲載 ・表紙から「みんなで」「未来へ希望をもって」というテーマを感じる。・写真や絵について、人種、性別、特別支援など共生社会を意識したものになっている。 ・QRコードから、動画や写真、図だけでなく、ワークシートも自分で読み込み、書くようになっていく。現在の学習指導要領達成のための後半は、よりタブレットなどの・チャート図や写真を通して学びが整理整頓できるように工夫してある。	3, 4年(かけがえのない健康)図によって1日の生活の仕方と身の回りの環境の区別が分かるよう工夫している。(体の発育・発達)教科書で1～4年までの自身の身長伸びを調べ、実際に友達と比べることで個人差があると実感できる工夫がある。 ・精通、初経を経験した時期のグラフでは、 <u>経験していない人の人数もあり、不安に思っている児童への配慮がある。</u> 思春期に起こる体の変化の図では男女に共通してみられる変化の項目がある。 5・6年(病気の予防)色分けをして視覚的に病気の起こり方を表す。色が多彩 ・各単元のまとめとなる基礎的・基本的事項は文頭に★マークを付けて示している。・各章末に「学習のまとめ」を設け、知識の確実な定着、自己の生活と関連づけて実践する力の育成ができるようにしてある。	3, 4年(かけがえのない健康)図によって1日の生活の仕方の具体的項目が分かりやすく示されている。「ほけんのはこ」により具体的な効果などより詳しい情報を得られるよう工夫されている。 3, 4年(体の発育・発達)身長伸びのグラフをタブレットで作成でき、作成しやすいう配慮している。初経・精通にかかわる経験談はない。(時期のみ) ・科学的な資料を取り上げた「かがくの目」(実験や拡大した写真などを中心とした資料)を随所に設け、科学的な理解・認識ができるように工夫している。 ・健康や安全のための生活・行動の根拠が、単なる“しつけ”ではなく、科学的に認識できるように、説得力のある論理的な文章と科学的な資料で紙面を構成してある。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	毎時間のふり返りを「もう一歩先の自分」と題して書かせている。ふり返りにくい児童のために、吹き出し等で例を挙げるなど工夫している。 単元のまとめには宣言として書かせたり発表させたりする場面を設定している。 5・6年(病気の予防) ・喫煙に誘われた時の断り方について考える問題を設定している。・各時間の終わりには、新しい自分にレベルアップとして、記述する欄を設けてあり、思考する力、判断する力、表現する力が身に付くようになっていく。理解度に応じて手助けになる吹き出しも設けられている。	3, 4年(かけがえのない健康)身の回りの人に聞いて書く欄があり、聞いたことから更に思考させ自分に必要なことを判断できるような工夫がある。 5・6年(病気の予防) 教科書の例から客観的に生活習慣病について考える問いを工夫している。 喫煙に誘われた時の断り方について考える問題を設定している。 ・課題解決学習を通じて思考力・判断力・表現力を育めるように構成している。各単元冒頭の「見つけよう」で自分の健康課題に気づかせ、習得した知識を活用して考える活動を経て、最後の「学んだことを生かそう」で自分の生活を振り返って見直す活動を行い、実生活で学びを生かせるようにしてある。 ・伝え合う活動を重視し、全単元において児童が思考・判断・表現したことを書くための記入欄を豊富に設けている。	思考したことをまとめるスペースが確保されている。 教科書に出てくる友達にどんなアドバイスをするか?など施行させるための問いを工夫している。 5・6年(心の健康) 自分でしてみようと思うことを書く箇所に、友達がしている工夫を書く箇所もある。 ・「ピース①(ふり返る)」→「ピース②(けいけんをもとに話し合う)」→「ピース③(学びを生かす)」という決まった学習の流れを繰り返すことで、着実に「思考力・判断力・表現力」が育まれるように、学習活動を工夫してある。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・3, 4年(かけがえのない健康)(体の発育・発達) ・イラストだけではなく、 <u>実際の写真を入れることで想像しにくい児童に対して配慮している。</u> ・1時間の見通しもてるようにするために「本時の menu」をつくり工夫している。 ・各学年の章末には学習したこと、理解したことを踏まえ、思考、判断、表現の力を身に付けられるように、また、その過程を友達と考え、伝え合うことで、より自信をもって、これからの生活や学習に向き合えるように「わたしの〇〇宣言」という宣言を記入できるページを設定してある。	3, 4年(かけがえのない健康)(体の発育・発達) <u>初めのページの導入の漫画</u> によって児童が健康に対して課題を持ちやすく出さるよう配慮されている。 より詳しく調べるためのWEBサイトがページ下にあり、更に意欲があつて調べたい児童や調べ学習をする際の手立てとして取り上げられている。 ・各単元を「1 自分の生活を振り返る」「2 学習の課題をつかむ」「3 課題解決に向けて学習活動をする」「4 学習をまとめる」「5 自分の生活に生かす」の学習過程で構成し、実生活へつなげる学びを意図してある。 ・資料ページ「広げよう・深めよう」や各単元に設定されたデジタル資料で、児童が自らの興味・関心に応じて学習内容についてより深く学べるようにしてある。 ・身近なアスリートやクリエイターからのメッセージを監修してあり、児童の意欲を引き出す工夫がある。	3, 4年(かけがえのない健康) 健康とは何か、自分の生活はどうかを考えさせるため、アンケート形式の課題を取り入れながら、2ページ分を使って考えさせている。 タブレットが活用できるようにQRコードがあり、様々な児童に対して配慮している。 ・児童がせりふで語りかける形式を用い、親しみをもちつつ、学習に取り組めるように工夫している。また、担任の教師が、進行役(ファシリテーター)となって学習を導く役割をし、児童が主体的に学習する新しい学び方が実現しやすいように工夫している。 ・保健の先生(養護教諭)をはじめ、専門家からのメッセージの形式を用い、児童にとって重要な課題、現代的な課題を説明することで、自ら健康問題を主体的に解決していく力を身に付けることができるように工夫してある。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	5・6年(心の健康) <u>SDGsに関わりジェンダー平等の実現</u> についてふれられている。 (5・6年)けがの防止 熱中症の対応と対策について記載されている。 5・6年(病気の予防) <u>エイズ</u> についての記載がある。ピンポイントでSDGsとの関連表記がみられる。 ・新型コロナウイルスや性被害防止に関わる動画コンテンツQRコードがある。	3, 4年(かけがえのない健康) スマートフォンなどの使い方と生活リズムの関連について「広げよう、深めよう」のページに記載されている。 (体の発育・発達) 性に関する心の多様性のところでの相談窓口の記載がある。 (5・6年)けがの防止 インターネットのトラブルおよび胸骨圧迫とAEDについて記載されている。 新型コロナウイルス感染症やインターネット依存症など最新の健康課題も取り上げてある。	(体の発育・発達) 性に関する心の多様性のところでの <u>相談窓口の記載</u> がある。 (5・6年)けがの防止 胸骨圧迫とAEDについて記載されている。 ・現代的な健康課題、学習課題(ユニバーサルデザイン、キャリア教育、感染症、多様性、家庭・地域連携、SDGs、防犯・防災、いじめをとりあつかってある。

(4)枚中(4)枚

	(5) 他の教科等との関連	5・6年(心の健康) 教科書にも写真を入れて体ほぐしの運動に方法が載っている。併せて体ほぐしの運動の動画もQRコードで記載されている。 ・道徳心を養うことをねらって、脚注の「つぶやきくん」があり、感謝の気持ちをもつことに気付かせる仕組みがある。 ・5, 6年生でアスリートからの言葉があり、運動領域「体づくりの運動」のすすめを紹介している。	3, 4年(かけがえのない健康) 「広げよう、深めよう」のところで体育のからだづくり運動の動画のQRコードが記載され、手軽にできる運動ができるよう工夫している。 ・他教科・他領域の学習との関連が図れるように、他教科との関連を教科書内でしてある。	どの単元でもはじめに単元のつながる他教科と単元が記載されていたり、つながる仕事について記載されていたりして、教科のつながり意識できるよう工夫している。 ・単元の始めのページに「つなぐ」欄を設け、他教科との関連を意識できるようにしてある。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	3, 4年(体の発育・発達) より、伝わりやすく写真を取り入れていることが多い。イラストに関してもはっきりしたものが多く、どの単元でも「学習のまとめ」の小見出しがあり、まとめが分かりやすくしてある。 ・QRコンテンツの充実を図り、より興味をもち、もっと深い情報やいろいろな知識を習得できるようにしてある。	学習内容をさらに広げたり、深めたりする資料のページが様々な箇所に記載されている。 小学校での事故の発生時間や場所の割合が記載されている。 ・子どもの主体的な学びをサポートするため、紙面の拡大やふりがなの表示、リフロー表示など、個々の子どもに適した表示ができるようになっている。 ・イラストや写真では、男女の比率やそれぞれの役割に偏りのないように配慮している。また、性別によって服装や髪型、身に付けているものの色などが固定的なイメージでパターン化されないよう、十分に注意してある。	学習の進め方が子ども達に分かりやすく円グラフのような形で記載されている。単元のふり返りをまとめるページがある。 小学校での事故の場所の割合が記載されている。 ・教科書の二次元コードから、詳しい解説や動画、画像、参考ウェブサイトへアクセスできるなどデジタルコンテンツが豊富にある。また、自分のアクションがその場で見えるコンテンツがある。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	外国語(英語)	種類	6種
--------	---------	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	発行者名(2・東書)NEW HORIZON Elementary English Course	発行者名(9・開隆堂)Junior Sunshine	発行者名(15・三省堂)CROWN Jr.
		教科書の記号・番号 英語 509・510・609	教科書の記号・番号 英語 511・512・611・612	教科書の記号・番号 英語 513・514・613
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	●多種多様で豊富な情報量である。授業と自主学習、個別最適な学びをつなげる手段や方法・活動量が十分確保されている。大きな誌面で大きな文字、読み書きへの配慮が多く、ユニバーサルデザインで誰にでも使いやすい作りである。	●中学年の音声中心の活動から、文字を意識させながら様々な領域をバランスよく育てていこうとする配慮が見られる。	●思考が深められるように周到に準備されたステップや流れが具体的でわかりやすい。見通しを持ち、自己修正をしながら目標に近づけるつくりである。(Unit ごとにHOP,STEP,JUMPがあり、スモールステップが見える化されている。)
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○Enjoy Communication(5年 P12,13 など)では目標の活動に至るステップを組み、自分の表現が作れるように表現例や単語例、会話例、会話を続ける反応例が細かく明示されているので取り組みやすい。 ○Sounds and Letter(5年 P16,26、60など)は単元ごとに最後にページが組み込まれており、定期的に文字の形・文字と音のつながり、音の始めや終わりの音にも注目させながら文字に慣れ親しむことができる。	○青い吹き出しで表現例が具体的に載っており、例を参考に児童が取り組める作りになっている。(5年 P16,17) ○Let's Listen and Read(5年 P27,29 など)では、5年の初めから音声を聞きながら指で追う活動が各単元で設定されている。	○読み書きの Let's Read and Write(5年 P59)がどの児童も取り組みやすいように、上段に例があり、それを読み、注意点を意識して自分の表現を書き込みやすい工夫となっている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○Check Your Step(5年 P73)では、学期末のパフォーマンステストに活用できるように、スモールステップを踏んだ目標や練習と考えを整理するための思考ツールのようなメモがある。(文字に頼りすぎずに日本語や絵で英語が発信できる作りになっていることで中学校の接続へとつながりやすい。)	○Let's Check(5年 P44、45など)で、学期末に聞き取りの習熟が図れる問題がある。評価問題にも活用できそうである。 ○Watch and Think(5年 P34)では、2分程度アニメーションがあり、(オンラインでの学校生活の紹介で、6カ国の児童の選択動画) テストや自習にも利用できる。	○学期末の Jump(5年 P34)では、これまでの各ページの Let's Watch で学習した表現の動画を振り返れる工夫がある。目的に合わせて考える発問が(QRコード)にあたり、自分が身につけてきたことを確かめたり、本番の発表内容例も QR で見ることができる。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○Over the Horizon(5年 P14、24)では、様々な異文化や言葉、日本国内をテーマにした知的好奇心を高める動画を見て書いたり、考えて選んだり、話し合ったりできるような活動となっており、授業や自主学習で主体的に取り組むやすいように工夫されている。	○Word Book が学年ごとについており、6年では語彙が増えている。(P18など)授業や自主学習で使えるように、「使い方」(P0)(ジャンルやさくいんから探せる。)トピックごとにQRコードがついており、学習したい語彙への音声接続もスムーズである。 ○CAN-DO チェックがあり(5年 P32 から128)、自分のできたことを書き込んで確かめることができる。	○ABC Fun Box(5年 P22、36)で楽しみながら文字で遊んだり、リズム感のある歌の歌詞を見たりと、習熟を深める活動が豊富で家庭学習でも活用できそうである。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○生き物の問題・できること辞書(P17)などは発展的・高度な語彙だが、中学と接続が図れる。	○Letter Box(5年 P22)へボン式への気づき「ん」の発音の違いについて明記されている。①さんかい②さんねん③さんばん Sankai, Sannen, Samban	○発展として BINGO(P23)の歌詞あり、視覚的教材で用意されている。
	(5) 他の教科等との関連	○Unitの始まりのページ上段に関連教科が明記されて分かりやすい。(P8など)	○Story Time(5年 P33)で日本各地の行事や特色・特産物を紹介している。	○Hello,World(P50)で世界や日本の特色や名所を紹介している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○Small Talk の提示が豊富でその話題につながる辞書ページの記載も細かく提示されている。(5年 P53 道案内のスモールトークには絵辞書の道案内・町のページ) ○文字が大きく見やすく QR コードでも大きく単語を見せてくれる。また、左利きの児童への配慮(P16)など、誰にとっても書きやすい読みやすいユニバーサルデザインな誌面づくりである。	○アルファベットの書き方練習の際(5年P112～)に、書き始めや通過点、書き終わりの点が色を変えて示されており、形が取りにくい児童への配慮がある。 ○あちらこちらに「QR」と明記されていて、QRコードを活用するタイミングが分かりやすい。	○名前を書いたり言ったりする単元(5年 Unit1 P20、21)では、ローマ字やへボン式についての説明や補足が充実しており、具体的な名前や地名に基づいた例が豊富に示されているので、理解が深めやすい。

教科用図書調査研究報告書(道徳を除く)

教科・種目名	外国語(英語)	種類	6種
--------	---------	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	発行者名(17・教出)ONE WORLD Smile	発行者名(38・光村)Here We Go!	発行者名(61・啓林館)Blue Sky elementary
		教科書の記号・番号 英語 515・615	教科書の記号・番号 英語 516・616	教科書の記号・番号 英語 517・617
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	●単元の中の学習内容が焦点化され、単元でやることばかりしている。量的な負担も少なく、単元ごとにどの児童にも「やさしく取り組みやすい」作りである。 ●他社の多くが Unit8 までなのに対し、本書5年生は Unit9 まであり、単元数が多い。	●学期ごとにまとまりのテーマにそって単元が配列されている。(5年→自分のこと→身近な人のこと→地域のこと 6年→日本のこと→世界のこと→将来のこと)この学期では、どのテーマを学び、何ができるようになるかが分かりやすい構成に工夫が見られる。	●全体的に「何をしたらいいかが分かりやすい」作りという印象である。中学年と Pre(5年 P8、6年 P10)で自己紹介のことは終わらせ、5年のスタートから高学年の学習が始まる工夫がある。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○吹き出しに番号や青枠があり(5年 P18など)、会話のイメージや見通しを持たせられるよう配慮されている。 ○Lesson では(5年P28, 37)大文字→小文字→形の似た文字(P75)を練習できるようになっている。	○単元に入る時の話題に入るための small talk 動画がある。(5年P17QR) Story に使われていた動画が Step1, Step2と区切られ 場面を明確にしてスモーステップで、場面をはっきり意識して練習できる。	○各単元の最後に Let's Read and Write(5年 P21, 31 など)があり、文字や音のつながりを継続的に進められるよう工夫している。 ○それぞれの Chant や Jingle はリズムがよく、カラオケのようにスピードに合わせて歌の色が変わる。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○単元末のパフォーマンスは Final Activity(5年 P18, 26)というページで行う。大体のスピーチややりとりの流れは吹き出しで理解できる。	○まとめ「世界の友達」(5年 P46,47 等)では、いろいろな国の子供にその単元で学んだことを使ってインタビューしたりコミュニケーションをとったりしているのを聞いてどんな話をしているかを推測させる工夫がある。アニメだけでなく実際の人物との対話場面が豊富である。	○Review(5年 P42, 76)のページで学習したことを統合的に使う活動(~を見ながら聞き取り、答える等)がある。特に Challenge(5年 P43, 77)は思考力・判断力・表現力を問われる活動に工夫している。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○単元末に Lesson をふり返るコーナー(5年 P19, 29)があり、三段階で自己評価できる工夫がある。 ○自己の考えを広げ深める「対話的な学び」のために Think(5年 P13,31, 35)の欄で思考する機会を作っている。 ○Review(5年 P29,39)が自主学习でも使えるように作られている。	○Let's Watch and Think(5年 P32, 42):世界の友達が自己紹介をしている動画。いろいろな国の英語を聞けるし、写真からどんなことを伝えているか推測できる。 ○Let's speak.(5年 P33, 43)いろいろな自己紹介から会話の広げ方・活動例がつかめる。	○付録シート(5年最終頁)に「会話を楽しむフレーズ集」があり、会話の中で目的に合わせてやりとりを弾ませる表現が一覧で見えて活用できるよう工夫している。 ○Did you know?(5年 P30, 40)などの異文化理解を深めるクイズがあり、児童が自分で答えを確かめ自主学习につながるよう配慮されている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い			
	(5) 他の教科等との関連	○社会「名所・名物マップ」(5年 P66~)、文化・地域への理解、SDGs への記載	○国語との関連で「言葉について考えよう」(5年 P88, 6年 P30,60,82)があり、日本と英語の違いや人と人をつなぐ言葉の役割について考えさせる配慮が見られる。	○5年 Unit8(P88)で世界遺産のこと。 ○STORY(5年P104, 105)では、自然(理科)を活用して内容を推測させながら文字や音声へ親しませる工夫がある。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○単元末の言語活動のパターンがわかりやすくはっきりしている。(5年 P82,83 など)ロールプレイやその際の会話の吹き出し(青色)や番号が付いていることで、どんな会話がどのような流れでできたらいいのかが分かりやすい。	○巻末の ALL ABOUT ME(5年 6年 P110)は自分が学習したことを一覧で見える形であり、自分の表現できるようになる過程や表現できることが増えていく達成感を持たせられるように工夫されている。	○4技能5領域を示すマーク(P2)があり、どの領域を扱っているかが児童にも指導者にも分かりやすい。 ○チャンツ(5年 P15, 17 など)には強弱を意識させるための赤丸があり、強く言うところが分かりやすい。 ○A から順番ではなく、5年の初めは C や O など大文字と小文字が同じ形の文字から扱っている。(5年P21)

教科用図書調査研究報告書(道徳)

教科・種目名	特別の教科 道徳	種類	6種
--------	----------	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	17 教出	38 光村
		道徳112 212 312 412 512 612	道徳113 213 313 413 513 613	道徳114 214 314 414 514 614
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領第1章総則の第1の2の(2)に示された道徳教育の目標に基づいた道徳科の授業が行えるよう、教材が適切に選定、配列されている。 シンプルで使いやすい教材の構成となっている。 内容項目の4つの視点をマークで表されている。 学習への投げかけや考えやすい中心発問やふり返りの発問が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会に合った多種多様な教材がある。 教材に、「学習のてびき」があり、児童が考え、議論することができるような問いがある。 各学年において、バランスよく配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びに主体的に取り組めるよう「学び方」「話し合い方」が掲載されている。 教材と他教科とのつながりが分かり、カリキュラムマネジメントしやすい。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 児童が道徳的価値観を形成する上で必要な、学習指導要領に示されている全ての内容項目を、6学年でもれなく取り扱っている。 教材末の「考えよう」では、道徳的価値に最も迫ることができる中心発問が1つ選ばれ、「◎」を付けて掲載されており、道徳的価値について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の4つの視点のどれにあたるかが明記されている。 教材の冒頭に導入があり、目的をつかんで学習に入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教材に学習のてびきがあり、主体的に考えられる発問がある。 教材は「導入→教材→学習のてびき」で構成されており、授業がイメージしやすくなっている。
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 各学年巻末の「考えよう」では、自己を見つめる発問が「○」を付して掲載されており、自分との関わりで考えを深め、自己を見つめることができる。 子どものキャラクターによる学習の投げかけが掲載されており、児童の問題意識を喚起し、自己の生き方について考えを深めることができる。 各学年巻末の「考えるためのツール」には、自分の考えを可視化するためのツールが例示されており、友達と考えを比べ、多様な感じ方や考え方があることに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の「学習のてびき」に様々な問いが設けられており、多様な視点で考えられるようになっている。 	
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> イラストで授業の流れを示し、子どもたちが学びやすいようになっている。 思考ツール(4年生以降は切り取って伝える「心情円」が付録に付いている。) 実際に道徳的行為をしてみよう「動作化」や、教材の登場人物の言動を即興的に演技して考える「役割演技」のページをすべての学年に設けている。 道徳的価値に根ざした問題を見つけ、多面的・多角的に考えながら話し合う学習指導課程を、全ての学年で提案されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1教材あたり文章が短いので「読む」ことの負担が少ないため学習に参加しやすい。 学習をさらに深めるため、タブレット学習に生かす欄がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材のはじめに、キャラクターによる呼びかけがあり「自分ならどうするか」という主体的に学習に取り組めるようになっている。 読み物教材だけでなく、マンガ形式の教材や絵や写真からなる教材など多様な教材があり、自ら児童が考えようとする工夫がある。
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ICT 端末に触れる機会の増える夏休み直前に、教材とコラム「つながる・広がる」を組み合わせた「情報モラル」ユニットが設置されている。また、各学年ごとの情報モラルテーマが設定されている。 現代的な課題に取り組む5つのユニットが全学年に設定されている。(いじめ(人間関係)、いのち(生命の尊厳)、じぶん(自己肯定感)、情報モラル)、安心・安全(防災・安全)) いじめの防止に直接関わる(いじめ(人間関係)、いのち(生命の尊厳)、じぶん(自己肯定感))の3つのユニットが設置され、繰り返しいじめの防止について考えることができる。 先人の伝記、スポーツを題材とした教材、国際理解教育、平和教育、SDGs コラム、自然や環境問題について考える教材、消費者教育などについて考えられる教材が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年、情報モラルに関わる教材やコラムが掲載されている。 「いじめ問題」「情報モラル」については全学年、「環境」「共生」の現代的課題は3年生から6年生まで教材とコラムが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年「いじめ問題」「情報モラル」「伝統文化」「環境教育」について掲載。「国際理解教育」「キャリア教育」「安全防災教育」についても掲載されている。
	(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等での道徳教育との関連を図った教材を取り上げている。 教材に付随するコラム「つながる・広がる」に他教科等との関連が明示されている。 各学年巻末の「教材一覧表」に他教科等との関連が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時期と教材内容の季節が一致するようになっており、社会や理科、生活との関連もしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生以上の教材巻末に「つなげよう」があり他教科が出の関連付け、また、関係する内容の図書の紹介がある。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインフォントの教科書体を使用している。 低学年、中学年、高学年で文字の大きさや行間を変えるなど、児童の発達段階に配慮されている。 児童が自己の生き方について意欲的に考えることができるよう、美しい挿絵やダイナミックな写真が掲載されている。 当該学年の一つ下の学年までの配当漢字が使用されている。 関連するウェブサイトへ遷移する二次元コードは、教材冒頭の定位置に掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文に5行ずつ番号が付けられており、特別支援への配慮がある。 カラーユニバーサルデザインへの配慮がされている。 	

教科用図書調査研究報告書(道徳)

教科・種目名	特別の教科 道徳	種類	6種
--------	----------	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	日本文教出版株式会社(116・日文)	208 光文	学研(224・学研)
		道徳 115 215 315 415 515 615	道徳 117 217 317 417 517 617	道徳 118 218 318 418 518 618
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値の全ての内容項目を扱いつつ、現代的な課題が重視され、重要な課題については複数の教材が取り上げられている。 QRコンテンツで「議論する道徳」の具体的な様子が視聴できるようになっている。 各教材の最後の発問は「見つめよう・生かそう」となっており、道徳的判断力や実践意欲を促す目的がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の特徴として、児童と教師がともに深く考えることができるように、学びの場を3つの要点「見つける」「考える」「広げる」で構成されている。 「見つける」では、児童が生活の中にある疑問や問いを見つけ、それを友達と考える時間へ導くページ(オリエンテーション)が設けてある。 「考える」では、児童が考えたい教材が設定されている。また、特に児童に考えさせたい内容については、「重点主題(いじめ・命・人間関係を主とした学年独自主題)」として複数時間構成としている。 「広げる」では、教材からさらに発展した学習に取り組めるコラムや、子どもたちの身近な地域を題材にした教材、児童が自身の学びを見つめて成長を振り返る「学びの足あと(巻末)」が設けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育めるように全学年において適切に扱っている。 我が国と郷土の伝統文化に触れる機会を多様に用意している。 公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努める態度を養うことができるように教材が配置されている。 学習指導要領の4つの視点が分かりやすいように、マークで示されている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 「ロールプレイ」、「書く」、「図式に整理する」などさまざまな学習活動が示されている。 各学年の巻末ページに、「見つけた!ここにも道徳」として、自分の身の周りの生活から道徳的価値に気付くためのヒントが示されている。また、3年生以上では学習したことがSDGsの視点とどのように関連しているか考えさせるコーナーもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教材には、冒頭に「導入」、末尾に「かんがえよう(中心発問)」「かんがえよう(別の発問)」「まとめよう(終末)」「ひろげよう(発展)」を設置し、1時間授業の目的や流れを明確にしている。 導入で持った問題を意識して学習に臨み、終末で学習内容を振り返ることによって、授業開始時と終了時における考えや心の変容が実感できるよう作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いのち」を最重要テーマとして、内容項目の「生命の尊厳」について全学年で3本教材が用意されている。「いのちのユニット」を設けて、異なる内容項目の教材を組み合わせることで多面的・多角的に「いのち」について向き合えるようになっている。 さまざまな先人の生き方に触れながら、自己を見つめ、考えを深められる学びが展開できるようになっている。
	(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値を、より深く、多面的・家宅的に考えることができるように「心のベンチ」というコラムが各学年に5つのテーマで1点ずつ掲載されており、教科書に書き込んで自分の考えを深める工夫がある。 写真で問題解決的、体験的な学習方法を示す「ぐっと深める」で、友達とのやり取りから物事を多面的・多角的に考える場面が示されている。 QRコンテンツはシンキングツールや心情メーターがあり、多様な考えが交流しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に寄り添うキャラクターを設定し、共感や気づき考えるためのポイント、考えを広めるための見方など、様々な問いかけを行うようすることで、物事を多面的・多角的な思考を促すよう工夫されている。 考えをまとめたり、広めたりするための手立てとして、オリエンテーション内(P6-7)に思考ツールの活用方法も提示されている。 オリエンテーション内(P2-3)の中で育てたい児童の姿を4つの観点で提示することで、児童自身が「なりたい自分」をイメージできるようにし、自己を見つめ、自分自身の考えを見つめられるよう工夫されている。 教材の最後には「かんがえよう」として、中心発問に加えて、視点が異なる発問を掲載しており、多面的・多角的に考えるためのヒントとして活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特設ページ「心のパスポート」のページを教材の後に設けて、その教材での学習を基に、自分に繋げてあなが得たり、体験したり、話題を広げたりする。 「深めよう」ページでは、道徳的価値について、多面的・多角的に学びながら考えを深められるようになっている。 「いのち」「多様性」「キャリア」の3つのテーマのユニットが設定されている。
	(3) 児童が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	<ul style="list-style-type: none"> 文学作品、スポーツ選手、芸術家など幅広いテーマが扱われており、興味・関心を引き出す工夫がある。 見通しをもって学習する際の手がかりとなるよう、教材の右端に内容項目をキーワードとして掲載されている。 どの教材も、見開き構成に3つの発問という「学びの流れ」が作られており、学び方が分かりやすい。 学習意欲を向上させるような QR コンテンツが充実しており、学校や家庭で自ら自由に視聴できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自ら「問い」をもって授業に臨むことが重要であることを踏まえて、各教材の冒頭において子どもの経験や生活の中から「問い」がもてるように様々な設問(導入)の工夫がされている。 教材の最後には、2つの「かんがえよう」の問いかけが設置してある。ねらいに迫る視点からの問いかけと多面的・多角的に考えられるような問いかけをもとに、児童の考えを広めたり、深めたりすることで、問題解決に向けて取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題名の下に、お話に入るためのきっかけとなるキーフレーズが書かれている。これによって、教材への関心をかき立てる投げかけとしている。 教材の最後に配置された「考えよう」では自己を見つめて考えるきっかけとなる問いが配置されている。 現代課題に関連する学びのテーマをマークにしてタイトル下部に配置してある。身の回りの課題とつなげることで、児童の主体的な学びを促すことができる。 二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスできる。教材に関する資料から児童の学びの場を広げ、考えを深められる。
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 「福祉」、「平和・人権教育」、「キャリア教育」、「防災教育」、「SDGs」など、現代的・社会的課題について学べるような多様なテーマの教材が選列されている。 全学年に、著作権、個人情報の重要性、情報を扱う際のルールなど情報との向き合い方について考える教材が選列されている。(通信機器について直接扱うのは中学年以上) 「いじめ防止」は、最重要テーマの一つとして、各学年に複数の教材が用意され、繰り返し重点的に扱えるようになっている。また、多様な価値と組み合わせることで複数の教材を集中的に扱えるよう、まとめて配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報化への対応については、情報モラルに関わる内容を題材として扱い、情報社会で適正な活動を行うためのものとなる考え方や態度について考えられるようになっている。 身近な話題を通して、情報モラルが学べる教材やコラムを全学年に配置されている。学校教育でのタブレット端末使用に伴い、タブレットの利用を前提としている。また、スマートフォンの利用については第1学年から取り扱うことで、より実社会に即した内容としている。 持続可能な開発のための教育を意識した学習ができるよう配慮されており、全学年にSDGsコラムを発段階的に合わせて設置している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の扱い方から始まり、SNSのコミュニケーションのあり方まで系統的に取り上げ指導できるようになっている。 現代的な課題に目を向けた教材やユニット編成になっている。 「安心・安全」「情報モラル」「いじめ」「いのち」「じぶん」のユニット編成になっている。 生命の尊厳や人権を重んじ、多様性を受け入れながら、他者と共によりよく生きることについて考えられようになっている。 一つのテーマのもと、内容項目が異なる2教材を連続して学ぶユニット教材が設定されている。 今の自分に考えたうえで自分をとりまく人々、社会、環境と自身が繋がっていることに気付かせ現代的な課題に取り組む意欲を育てるページが設けられている。
(5) 他の教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> 他教科等の学習活動そのものを扱った教材が掲載されている。また、特活等での児童の体験をもとに考えさせる教材もある。 道徳での学びを広げるコラム「心のベンチ」の右下には、「ほかの教科との関連」が示されており、道徳科以外の教育活動とつなげて学べる工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の他教科での学習や特別活動を意識して教材の題材が設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の各地域に関連した内容が掲載されている。 各教科等で道徳性の育成につながる教材が用意されており、カリキュラム・マネジメントを取り入れられるように工夫されている。 	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 内容の校閲には、専門家が携わっている。カラーユニバーサルデザイン校閲も受けている。 学習者用デジタル教科書が発行されており、音声読み上げ機能、リフロー機能、背景色の変更など、児童の特性に合わせた支援ができる。 児童の教材内容理解を助けるため、登場人物が挿絵とともに初めに示され、リード文で教材文の要点が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文や吹き出し、ルビなどに、見やすく、読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用し、デジタル教科書でも読みやすい書体になっている。また、児童の読み取りに差異が生じないように第3学年まではすべての漢字にふりがなが付けられ、第4学年からは、当該学年以上の漢字には、ふりがなが付いている。 すべての児童が見やすい色使いや形状など、カラーユニバーサルデザインを採用している。 AB判を採用し、見やすい紙面と軽量化を図っている。 人権上の配慮として、登場人物の性別や国籍、ジェンダーバイアスなどに偏りがないよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に捉えやすいように図表や挿絵、写真の配置は、視覚的に捉えやすいように本文との関連性に配慮している。 ユニバーサルデザインフォントの使用。 当該学年以降に配当されている漢字のすべてにふりがなが付いている。 理解しやすい表現で書かれている。